

新潟県在住の外国にルーツのある方 の生活と意識に関する調査報告書

2023年6月

新潟県・公益財団法人新潟県国際交流協会・新潟市中央区社会福祉協議会

目 次

【1 調査概要】	P. 1
調査の目的と概要	P. 1
調査票の構造と回答者数	P. 2
調査の認知経路、回答の言語コード	P. 2
【2 新潟県における在留外国人の概況】	P. 3
県内在留外国人数の推移	P. 3
県内の主な国籍別在留外国人の推移	P. 4
県内各市町村の在留外国人数	P. 4
【3 調査結果】	P. 5
(1) 回答者の基本属性（在留資格、国籍・地域、性別・年齢、日本での居住期間・居住形態、居住地域、世帯構成、同居の人）	P. 5
(2) 永住者等（主な仕事の雇用形態・世帯の主な収入源、近所の方との近所づきあい、近所の方とのトラブル経験、自治会・町内会への加入状況、子どもについて、今後の永住等の希望）	P.12
(3) 技能実習等（母国での最終学歴・現時点での実習期間、実習内容、月給・週の平均労働時間、就業先で満足していること、就業先で困っていること、日本語の学習方法、現在の会社で就業することになった理由、職場で困った際の相談相手、就業先として日本を選択した理由、今後のキャリア）	P.16
(4) 留学（学校の種類・専攻分野、新潟県で就学した理由、日本でのアルバイト経験・週のアルバイト時間、アルバイトをする理由、卒業後の予定、希望する業務内容・日本で働きたい期間、就職先として新潟を選択するかどうか、新潟県を希望する理由・希望しない理由）	P.22
(5) 共通項目（使用する SNS、日本語の難しい点、日本語での会話の頻度、困った時の相談先、公的機関等を利用する際の不安、地域で暮らすための情報、日本人との交流の程度、それに対する希望、生活上の困りごと、必要としている情報、災害への備え、ふだんの社会活動など、「差別」の経験）	P.27

【1 調査概要】

調査の目的と概要

- 調査目的：在住外国人のニーズや現状を把握し、関係機関が効果的な支援に取り組むための基礎資料とすることである。
- 調査対象：18歳以上の新潟県在住外国人
- 調査期間：2022年10月1日から10月31日
- 調査方法：インターネット調査

協力自治体を通じ、個人宅にURLを記した依頼の文書（ハガキ）を送付（県内17市町村5,566名）

URLを記した依頼の文書（チラシ）を配布（大学、民間団体、外国人コミュニティ、経済団体など268ヶ所）

新潟県国際交流協会のHP・メールマガジン・Lineに、URLを記した依頼の文書（チラシ）及び各言語へのアンケートフォームへのリンクを掲載

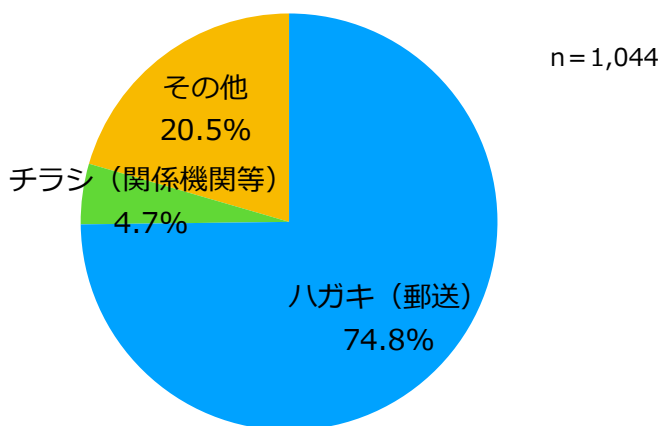
- 使用言語：やさしい日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、ベトナム語、フィリピン語、タイ語の8言語

調査票の構造と回答者数

	技能実習等 (n=280)	留学 (n=267)	永住者等 (n=373)	その他 (n=124)
在留資格	技能実習 (n=196) 特定技能 (n=84)	留学	永住者・特別永住者 (n=248) 日本人の配偶者や家族 (n=125)	その他
在留資格別項目	12問 (学歴、経験年数、実習内容、給料、労働時間、就業先で満足、困っていること、今後のこと)	6問 (学校の種類、専門分野、新潟にきた理由、アルバイト経験、アルバイトする理由、卒業後のこと)	7問 (仕事の有無、雇用形態、収入源、近所づきあい、町内会・自治会、子どもの有無、将来のこと)	
共通項目	14問 (日本語のこと、困りごとの相談先、公的機関等の利用に対する不安、必要な情報源、日本人との交流、日常生活での困りごと、外国人コミュニティ、災害への備え、使用しているSNS、差別の経験)			
属性	7問 (性別、年齢、国籍・地域、居住地域、居住期間、同居人)			

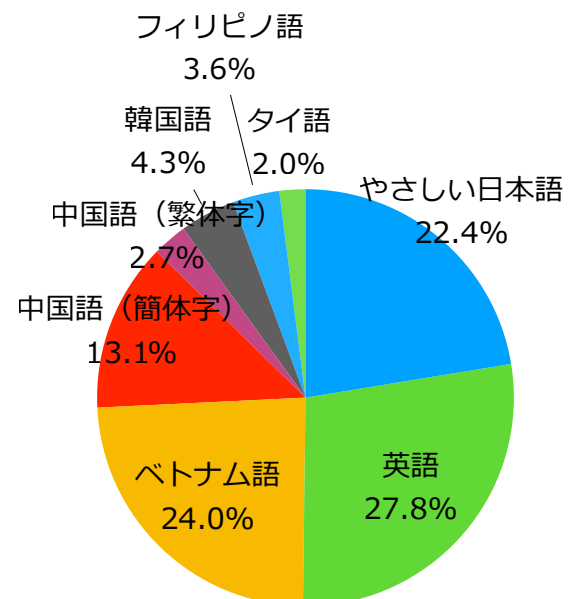
- 有効回答数は1,044名

調査の認知経路



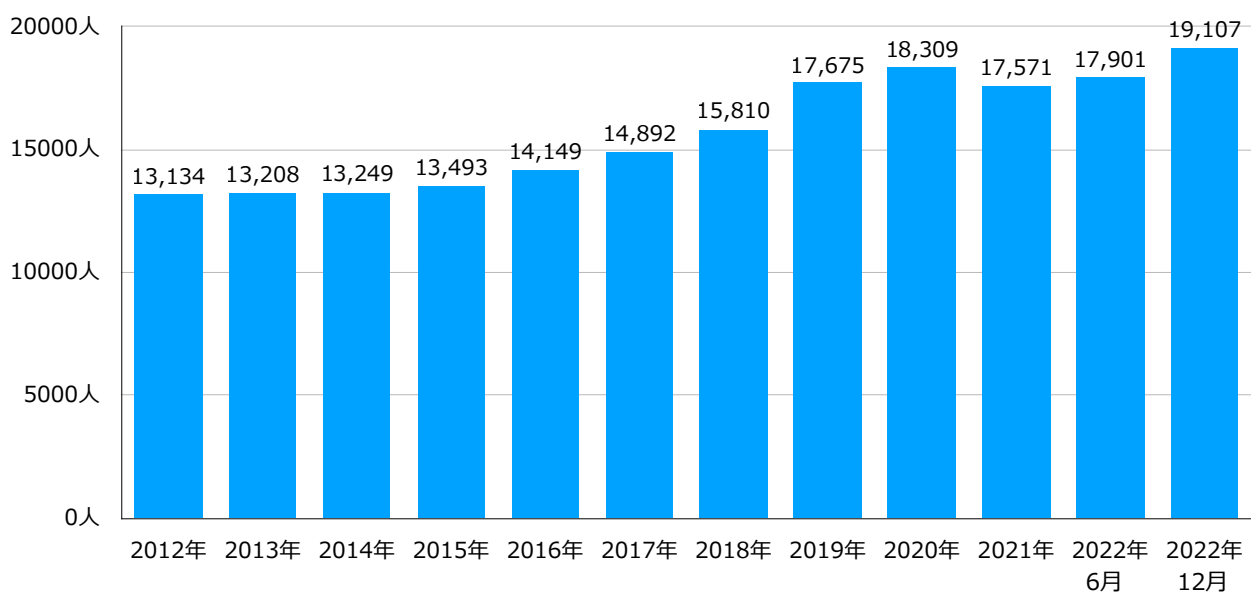
- なお、協力自治体を通じた配布5,566に対して、有効回答781名、有効回答率は14.0%

回答の言語コード



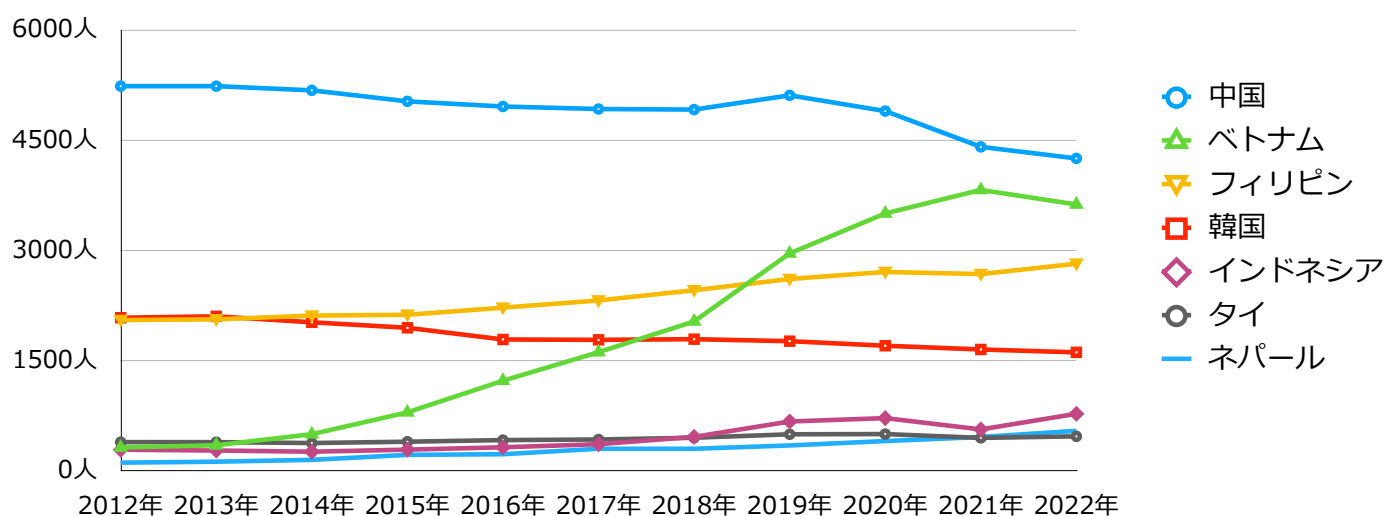
【2新潟県における在留外国人の概況】

県内在留外国人数の推移



(出所) 法務省「在留外国人統計」 ※2012年のみ12月末データ、それ以外は6月末データ

県内の主な国籍別在留外国人の推移



(出所) 法務省「在留外国人統計」

※2012年のみ12月末データ、それ以外は6月末データ

※韓国については、2015年までは「朝鮮を含む」

県内各市町村の 在住外国人人数

法務省「在留外国人統計」

2022年6月

新潟県17,901人の内訳

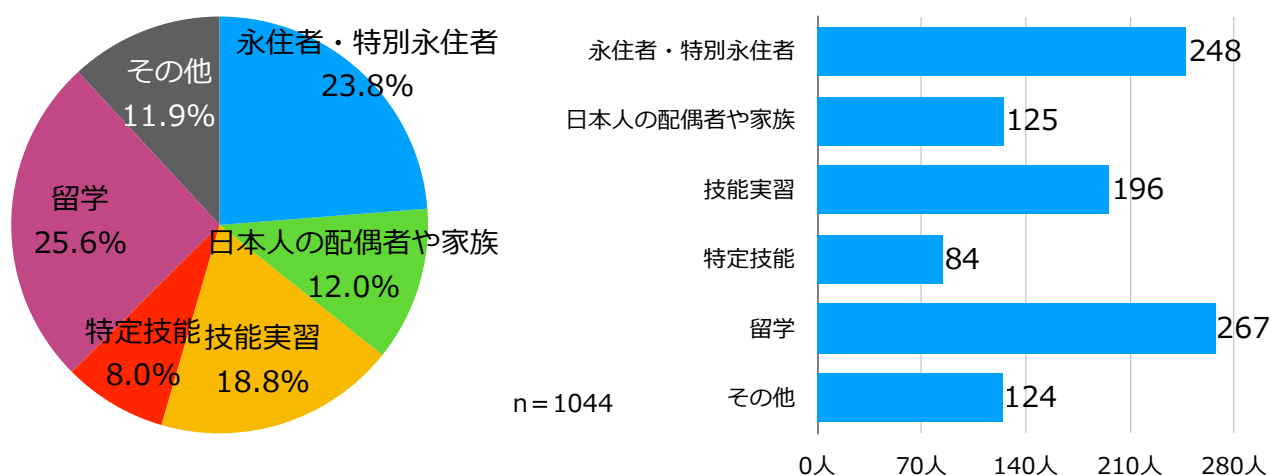
※在住外国人の人数の多い順

新潟市	5,514	聖籠町	283
長岡市	2,430	阿賀野市	268
上越市	1,899	魚沼市	238
南魚沼市	1,065	見附市	231
柏崎市	849	佐渡市	229
三条市	659	湯沢町	175
新発田市	625	津南町	127
燕市	553	加茂市	116
五泉市	436	田上町	46
糸魚川市	412	出雲崎町	46
妙高市	342	阿賀町	44
小千谷市	330	弥彦村	27
十日町市	319	刈羽村	27
村上市	298	関川村	18
胎内市	293	粟島浦村	2

【3 調査結果】

(1) 回答者の基本属性

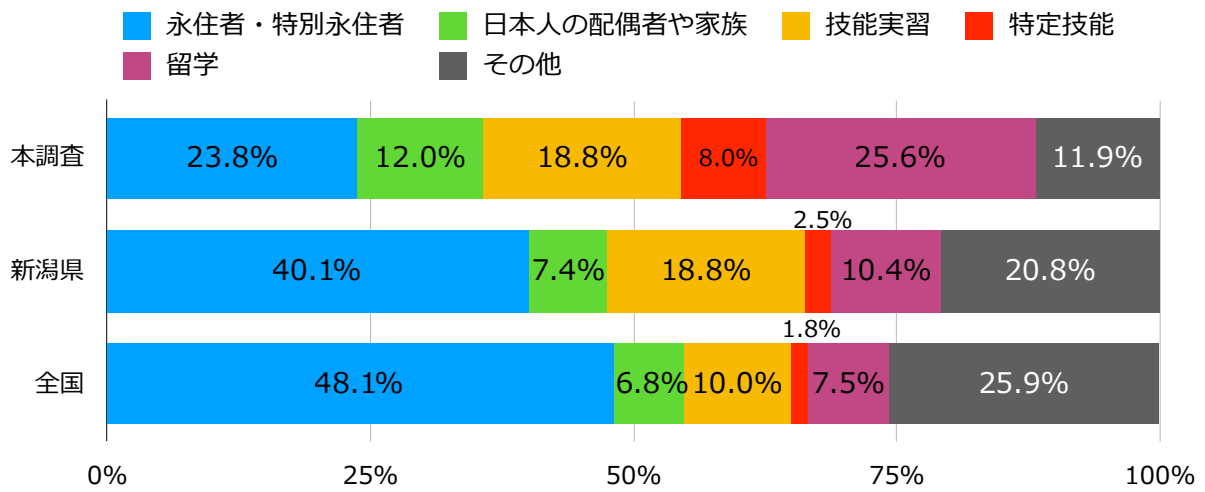
在留資格



- 在留資格は留学が1/4を占め、次いで「永住者・特別永住者」「技能実習」の順であった。
- 「永住者・特別永住者」と「日本人の配偶者や家族」を「永住者等」、「技能実習」と「特定技能」を「技能実習等」として整理する。

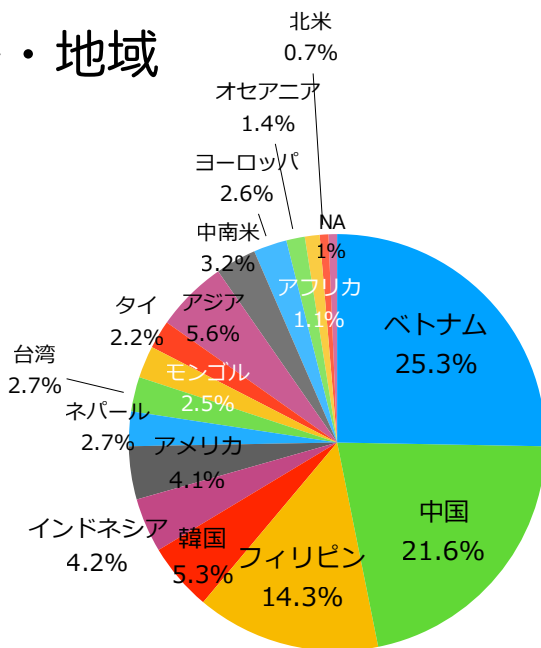
在留資格（全体との比較）

※「新潟県」「全国」、法務省「在留外国人統計」
2021年12月の結果

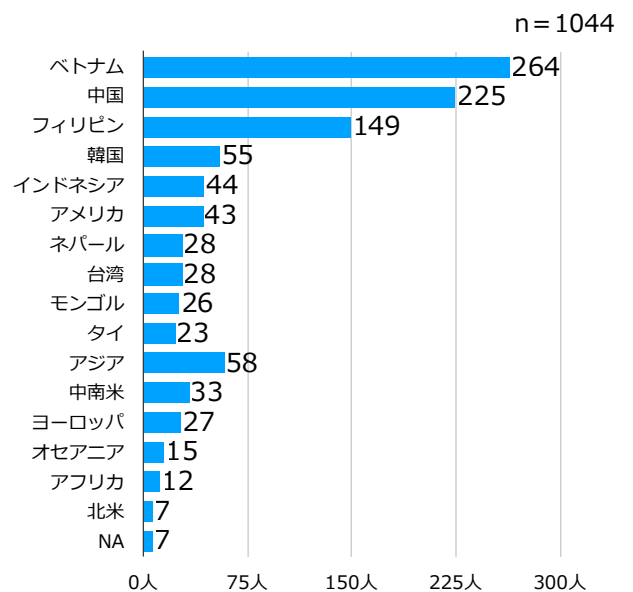


- 「留学」の割合が高い、「技能実習」「特定技能」の合計が約3割

国籍・地域



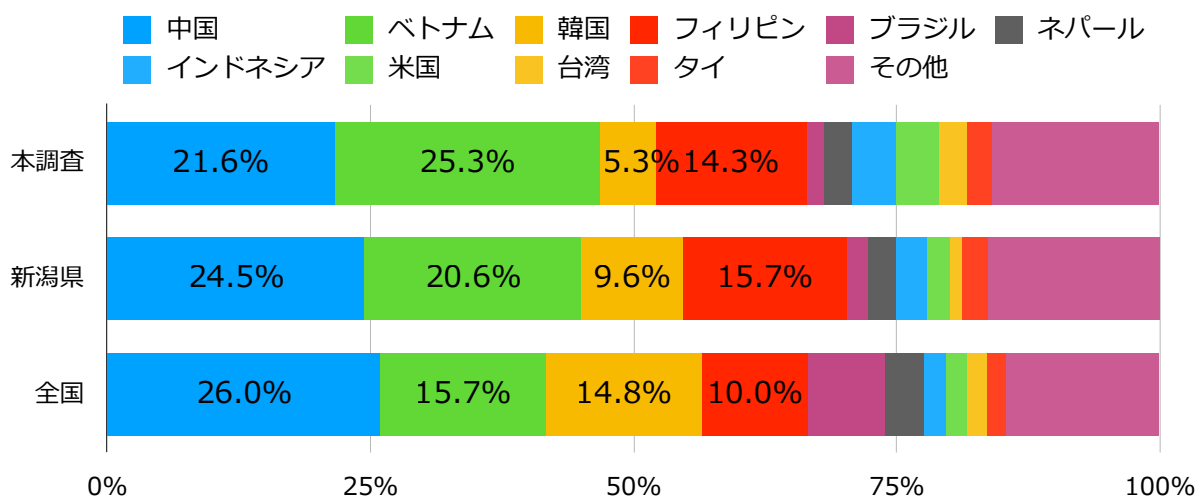
回答数が20以下については、地域でまとめた。



- 36の国と地域
- 回答者の国籍は、「ベトナム」が25.3%と1/4を占め、次いで「中国」「フィリピン」となっている

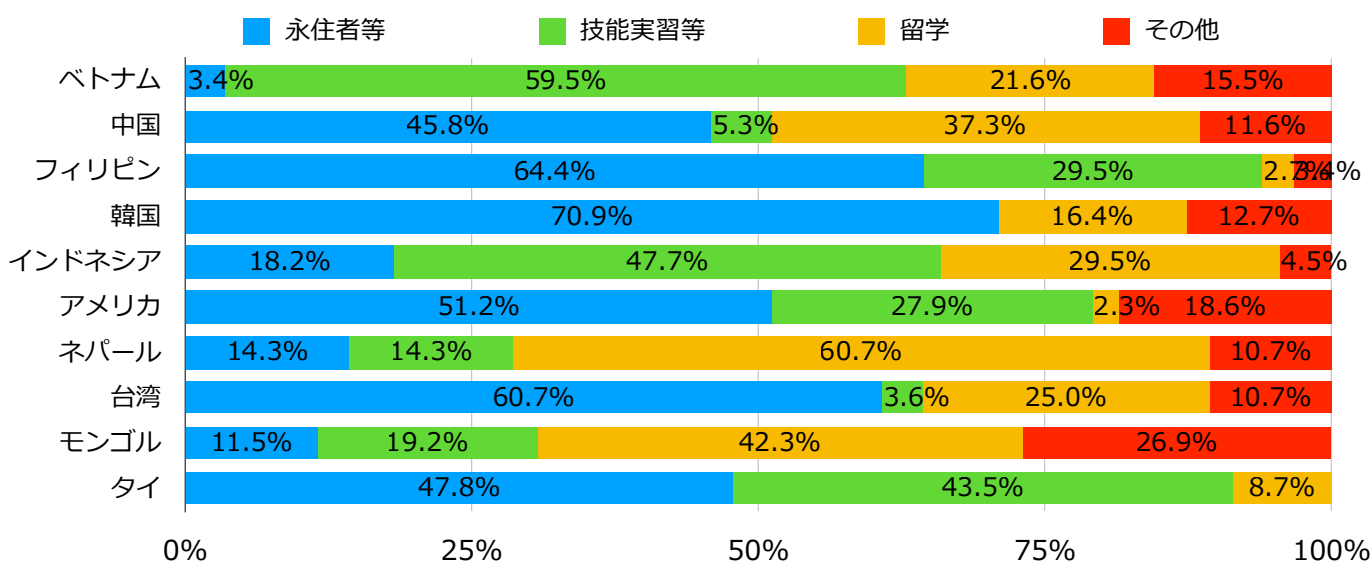
国籍（全体との比較）

※「新潟県」「全国」は 法務省「在留外国人統計」
2021年12月の結果



- 法務省統計と比較すると、本調査では「ベトナム」の割合が高く、「韓国」の割合が低い

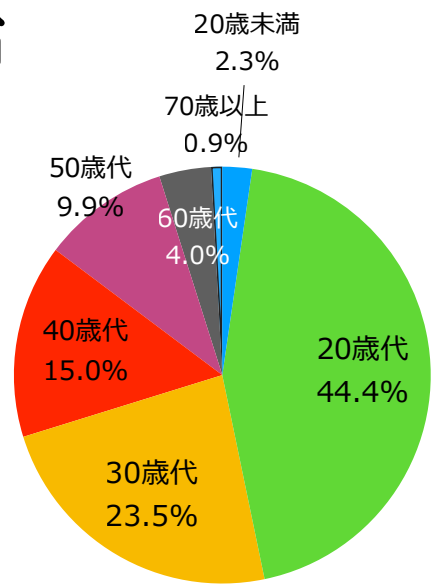
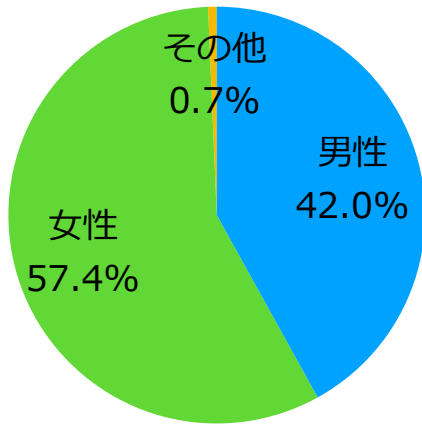
主な国籍ごとの在留資格の割合



- 永住者等は韓国、フィリピン、台湾、アメリカ、技能実習等はベトナム、インドネシア、タイ、留学はネパール、モンゴルが高い

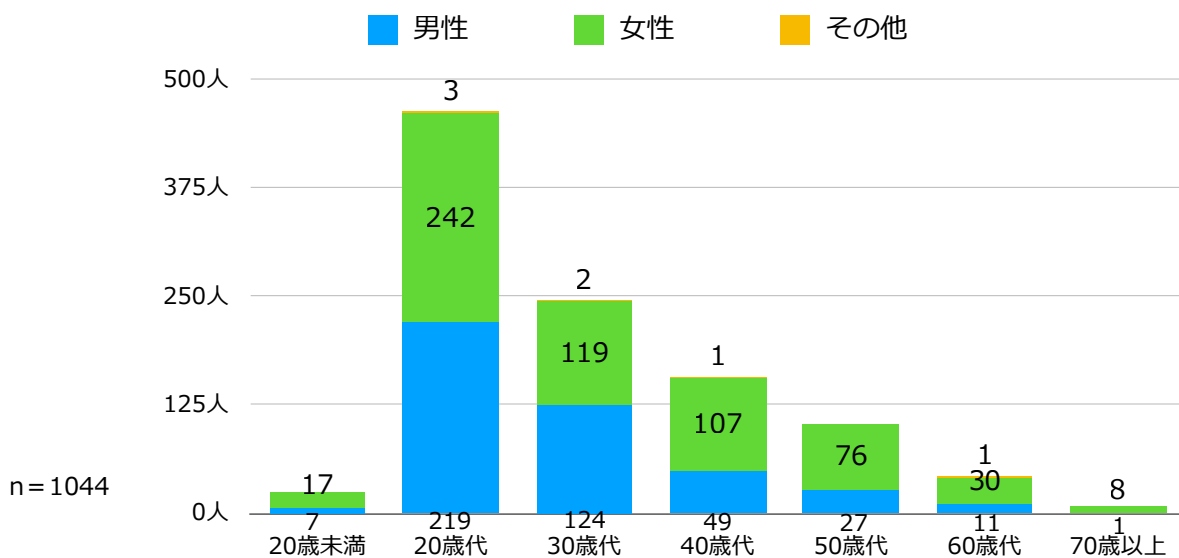
回答者の性別・年齢

n = 1044



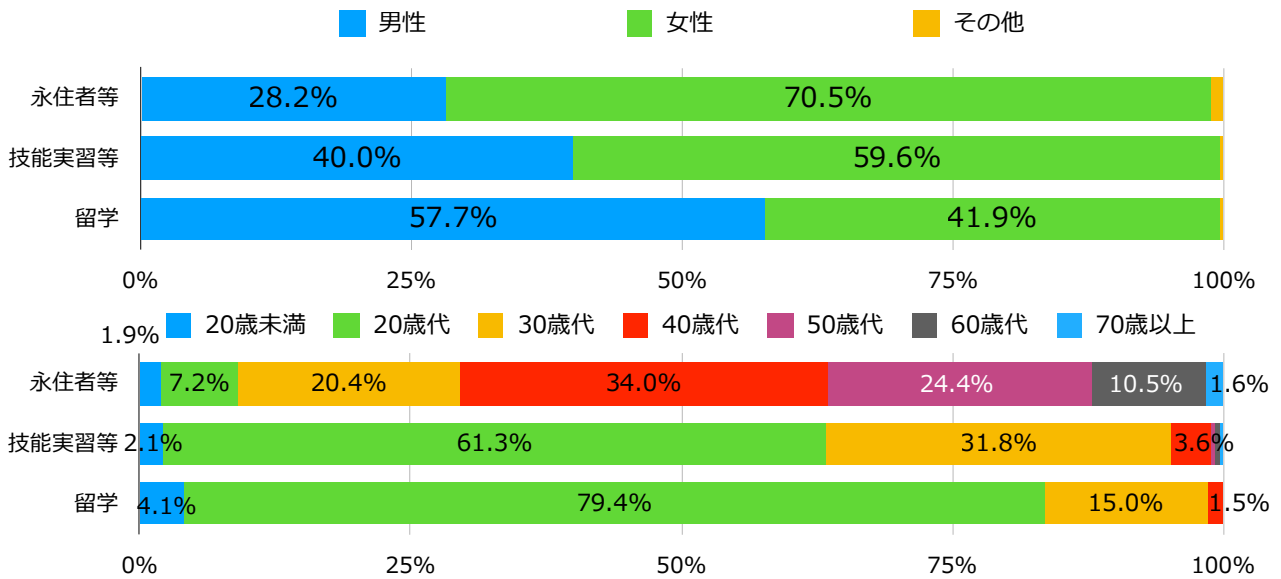
- 回答者の性別は、女性が57.4%となり、女性の方が多い。回答者の年齢は、20歳代が最も多く、「30歳代」「40歳代」の順になっている

回答者の年齢階層ごとの性別の内訳



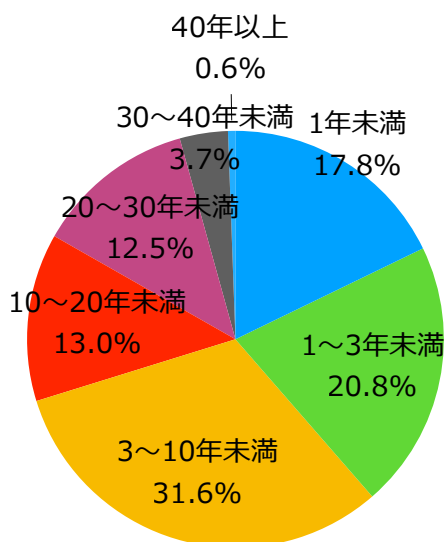
- 39歳以下は男女比はほぼ同数であるが、40歳以上は女性の割合が高い。

在留資格別回答者の性別・年齢

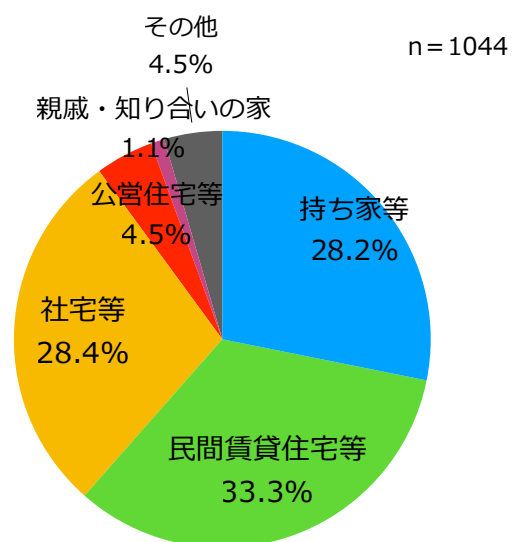


- 永住者は女性が7割、留学は男性が6割。技能実習・留学は39歳以下がほとんどをしめるが、永住者は40歳以上が7割を占める

日本での居住期間

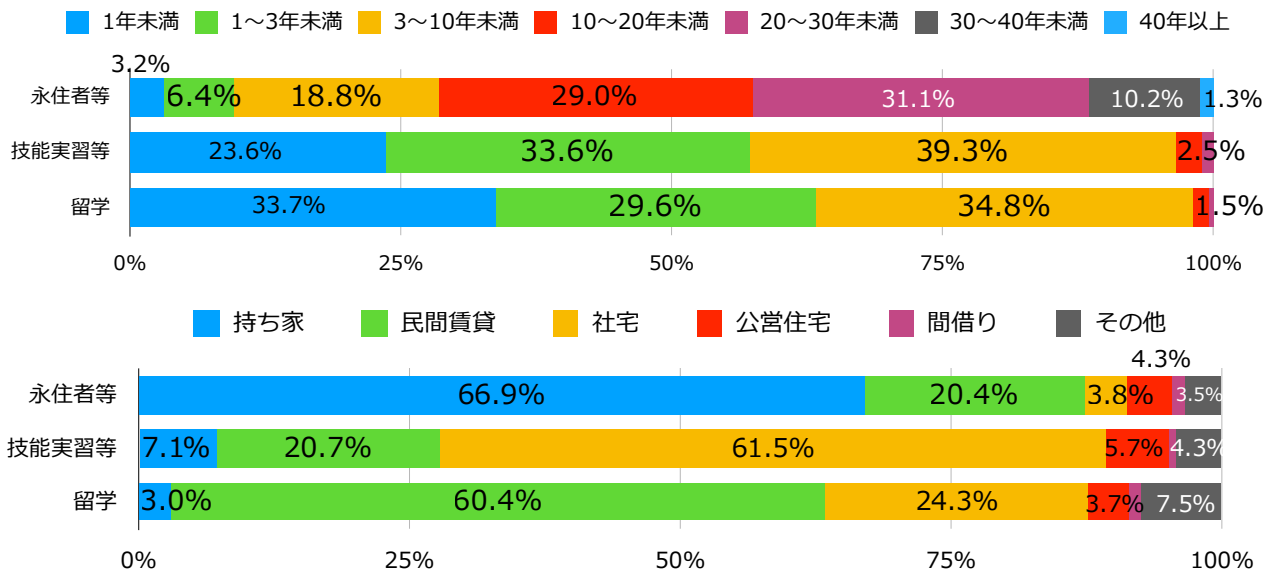


居住形態



- 回答者の滞在期間は、「3年未満」が4割、「10年以上」が3割であった

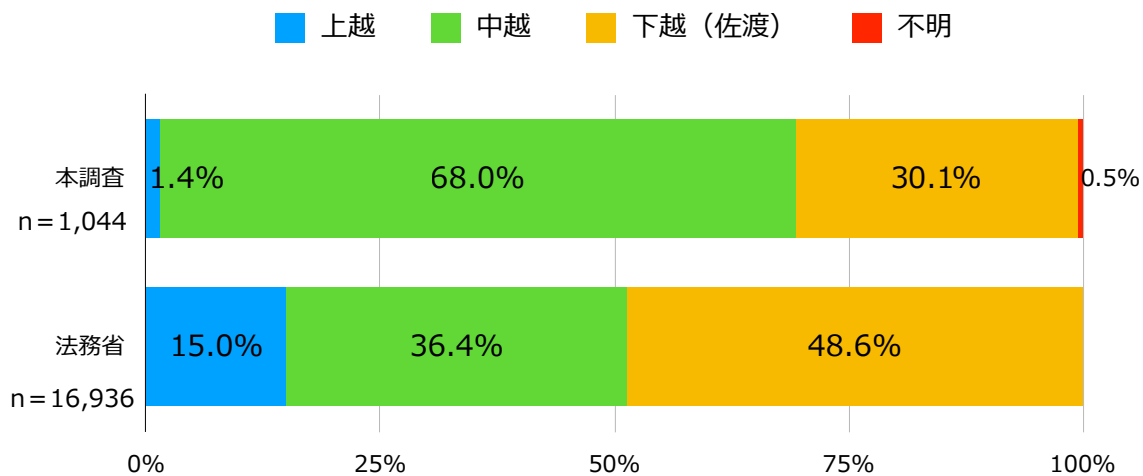
在留資格別日本での居住期間・居住形態



- 永住者は10年以上が7割。技能実習は6割が社宅。

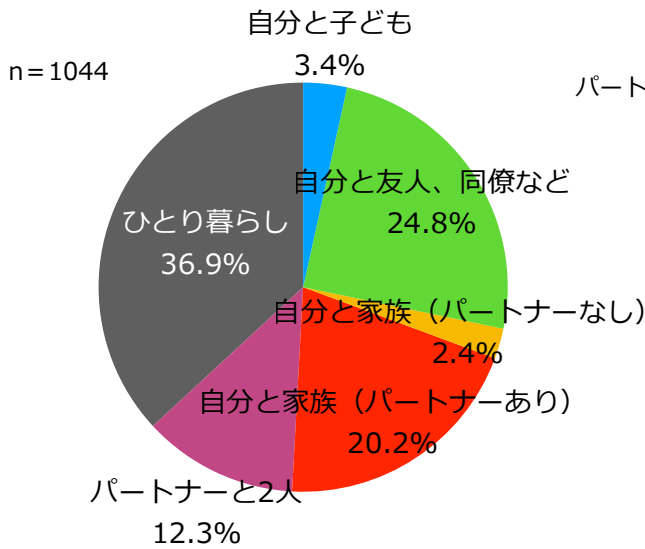
回答者の居住地域

※法務省「在留外国人統計」
2021年12月の結果

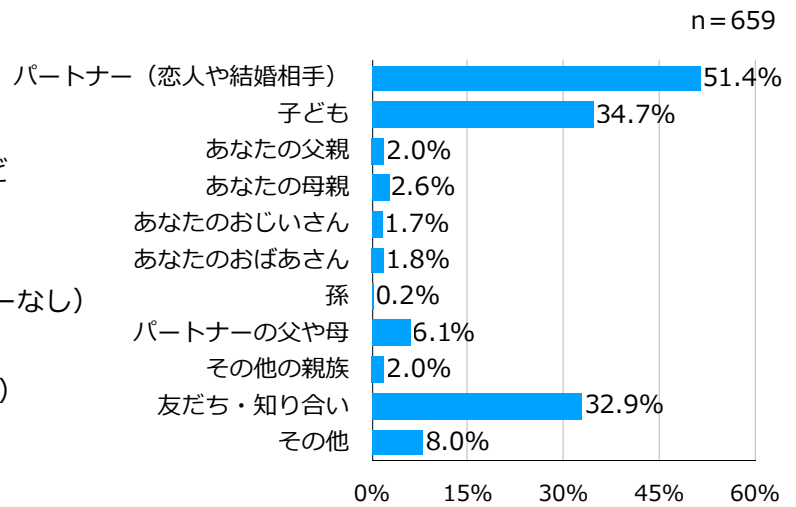


- 回答者の現在の居住地域は、「中越」が68.0%を占めていた。協力自治体が中越地域に多かったことの反映と考えられる。

世帯構成

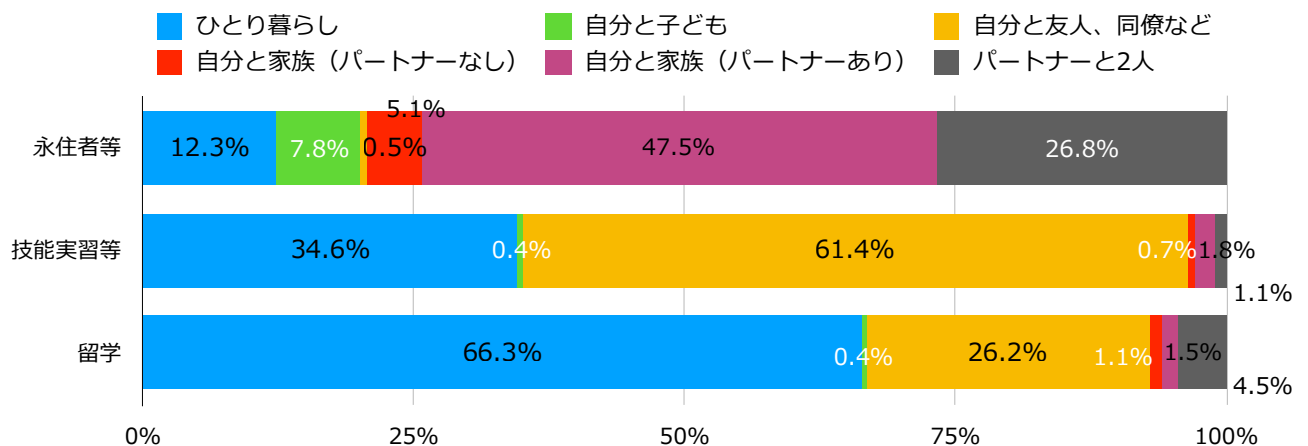


同居の人



- 「ひとり暮らし」は36.9%であった。友人や同僚と暮らしているのは24.8%であった。同居人は、「パートナー (恋人や結婚相手)」が5割、「子ども」「友だち・知り合い」がそれぞれ3割であった

在留資格別世帯構成 (同居者)

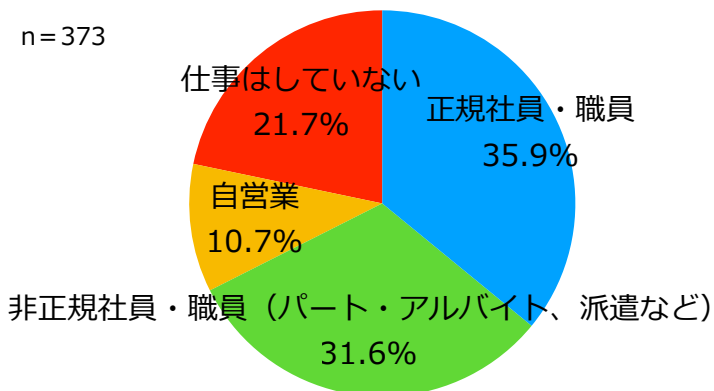


- 永住者等の8割以上が家族と暮らしている。技能実習等の6割は「友人・同僚」と暮らしている。留学生は6割以上が「ひとり暮らし」であった。

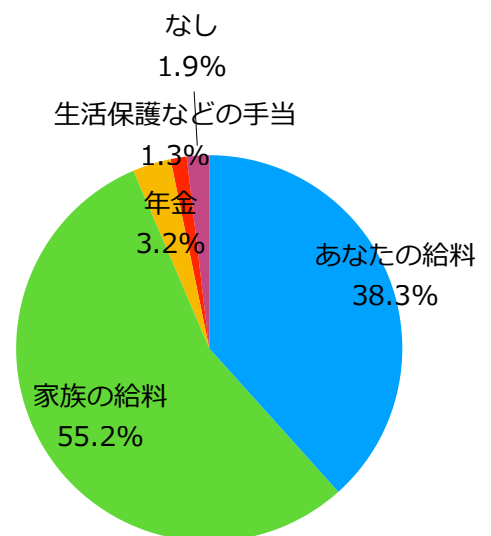
(2) 永住者等

※「永住者・特別永住者」(248) 「日本人の配偶者や家族」(125) の合計

主な仕事の雇用形態

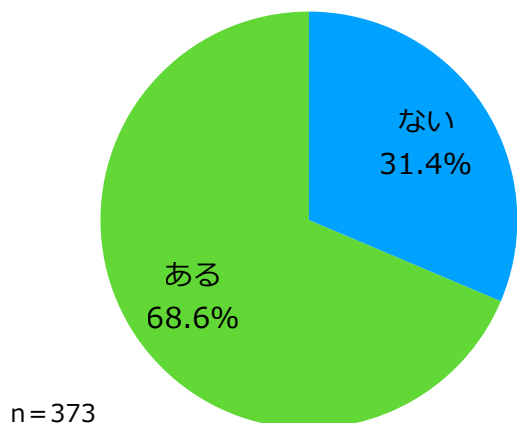


世帯の主な収入源

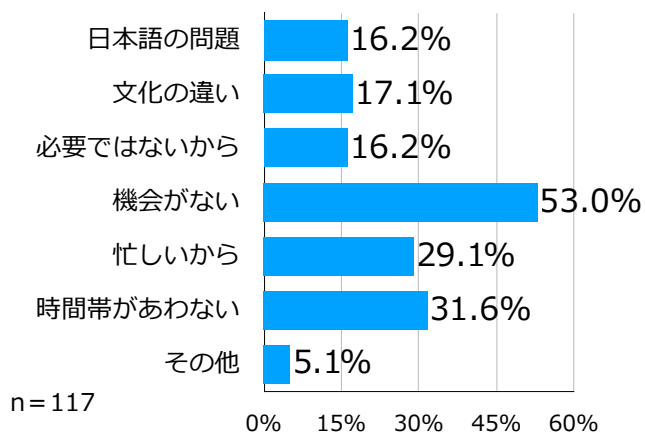


- 「永住者」は、8割は仕事をしていて、2割は仕事をしていない。世帯の主な収入源は、「家族の給料」が半数以上を占めている。

近所の方との近所づきあい

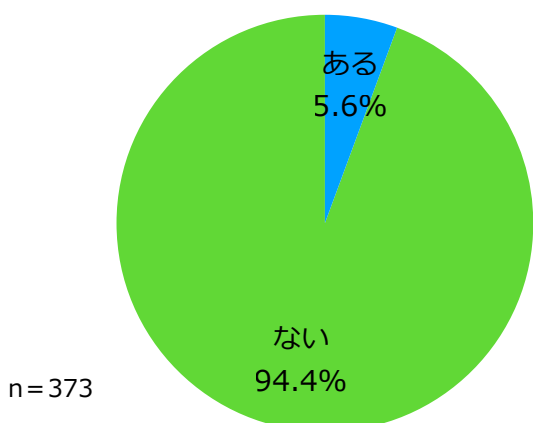


近所づきあいが「ない」理由（複数回答）

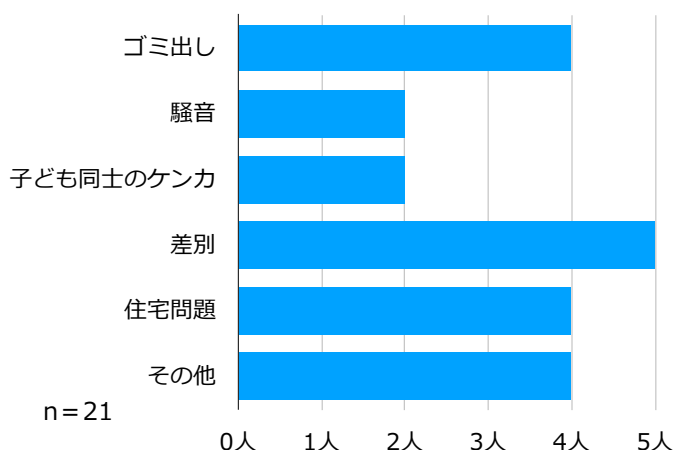


- 近所の方との近所づきあいが「ない」方は3割であった。その理由として「機会がない」が過半数を占めていた。その他の記述のなかに、「引っ越しのあいさつにいったがでてきてくれなかった」「（引っ越しのあいさつにいったら）近所の人緊張していた」という回答があった。

近所の方とトラブルになった経験

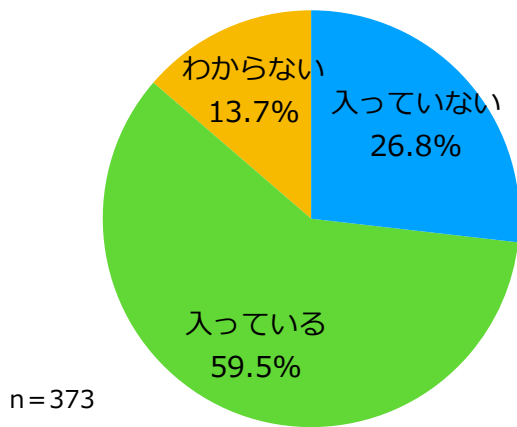


【ある】トラブルになった主な原因

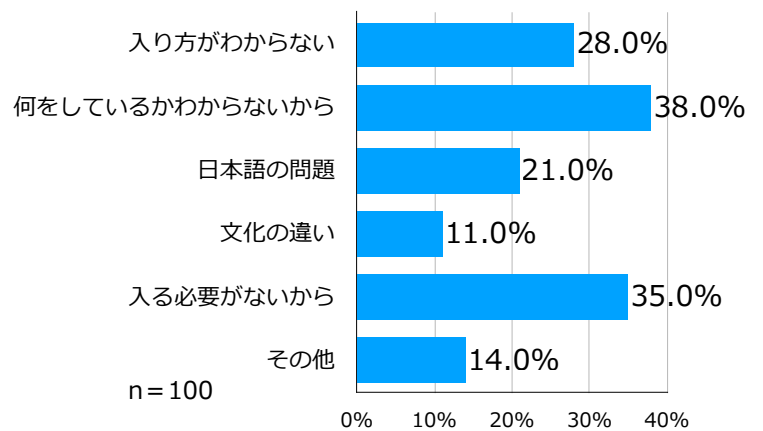


- 「永住者」で、「近所の方とトラブル」になったことがあるという回答は5.6%であった。その主な理由としては、「ゴミ出し」に加えて、「差別に関すること」「住宅トラブル」も挙げられていた。

自治会・町内会への加入状況

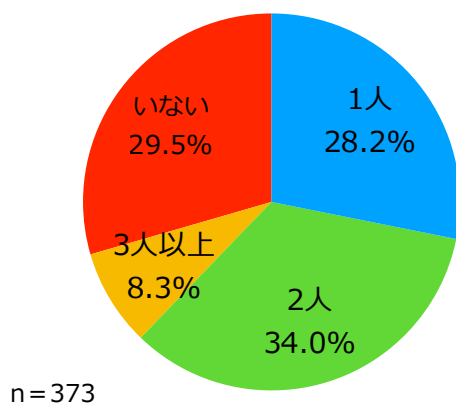


「加入していない」理由（複数回答）

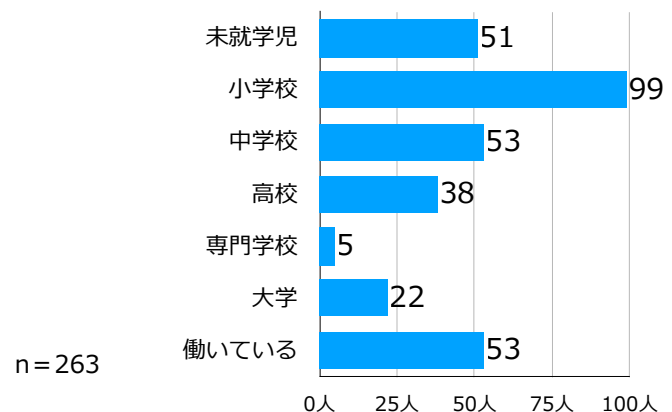


- 自治会・町内会に入っていない人は26.8%であった。入らない理由としては、「何をしているかわからないから」「入る必要がないから」が3~4割を占めていたが、「入り方がわからない」も約3割であった。

子どもの人数

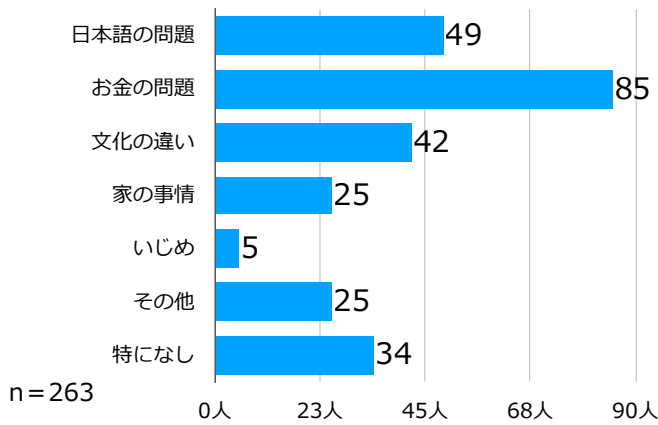


同居している18歳以下の子どもで、いま通っている学校等



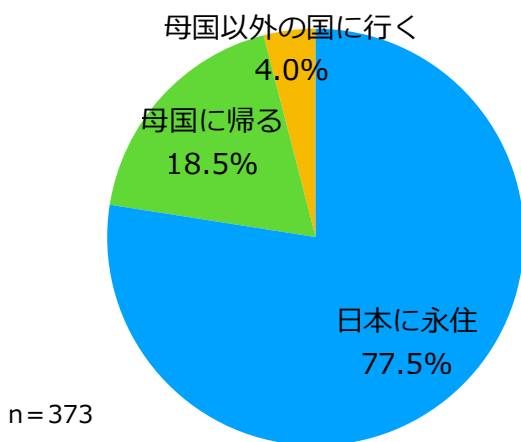
- 子どもがいる世帯は7割で、そのなかで子どもが小学生は37.6%、中学生は20.1%、未就学児は19.4%であった。

子どもの教育について1番困っていること



- 子どもの教育について1番困っていることとしては、「お金の問題」が32.3%と高く、次いで「日本語の問題」「文化の違い」であった。

将来の希望



【日本に永住と回答した方へ】日本で自分もしくは家族が亡くなった時のお墓や葬儀についてどのように考えていますか（主な回答）

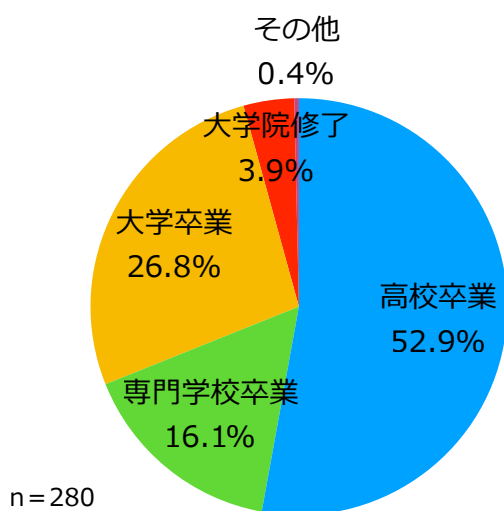
- 「わからない」「考えたことがない」が108（37.3%）であった
- 「家族に任せる」10（3.4%）
- 「日本の配偶者の墓」「日本式で行う」85（29.4%）
- 「帰国」「自国に遺体を運ぶ」36（12.5%）
- 「墓はいらない」12（4.1%）

- 永住者の3/4は日本に永住を希望していた。永住を希望している人のうち、自分もしくは家族が亡くなった時のお墓や葬儀について、「わからない」「考えたことがない」は37.3%であった。

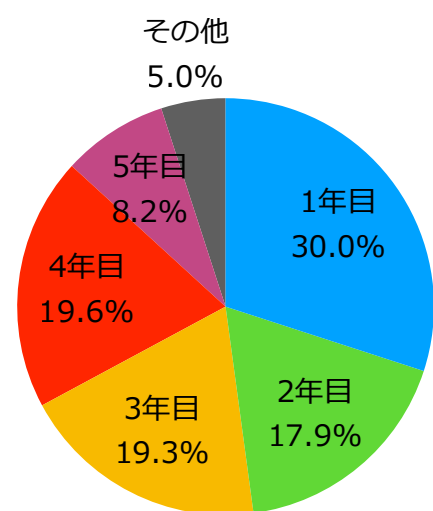
(3) 技能実習等

※「技能実習」(196)「特定技能」(84)の合計

母国での最終学歴



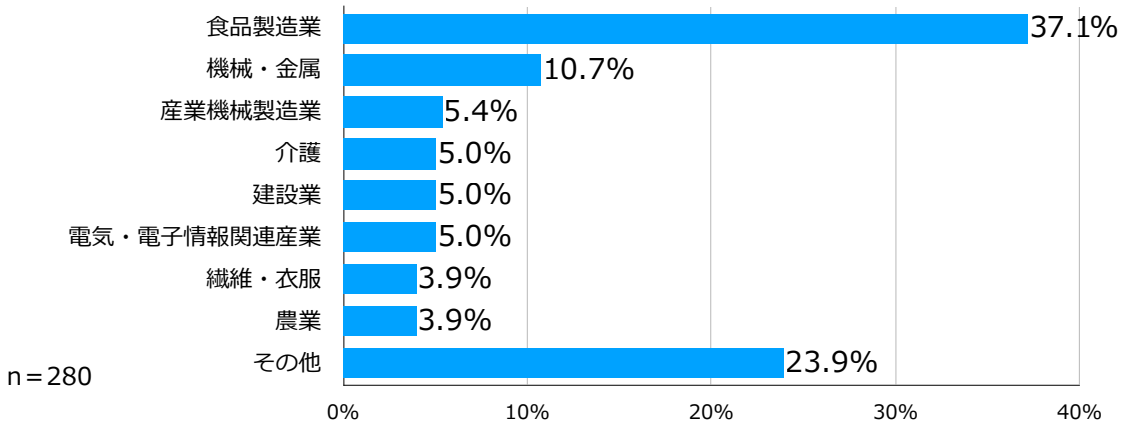
現時点での実習期間



- 母国での最終学歴は、「高校卒業」が過半数を占め、次いで「大学卒業」。実習期間は3年未満が67.2%を占めている。

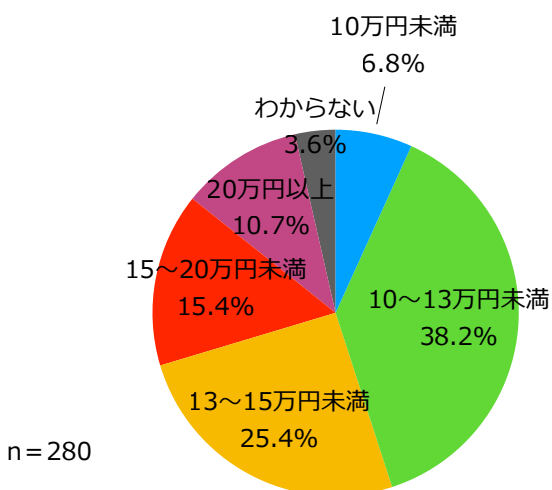
回答者の主な実習内容

回答数が10以下については、「その他」でまとめた。

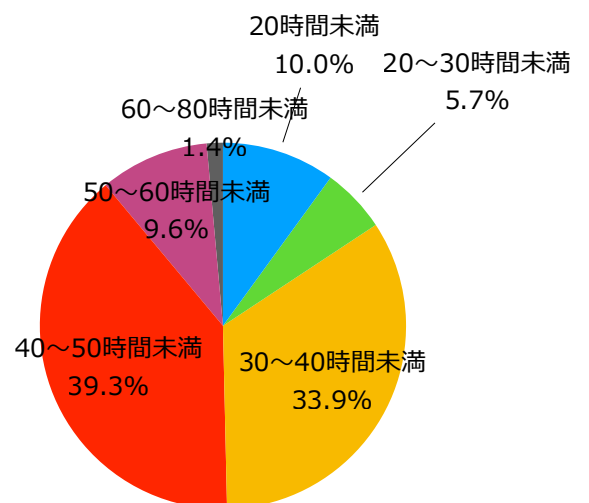


- 回答者の主な実習内容は、「食品製造業」が37.1%と1番多く、次いで「機械・金属」であった。

1ヶ月の給料（税込）

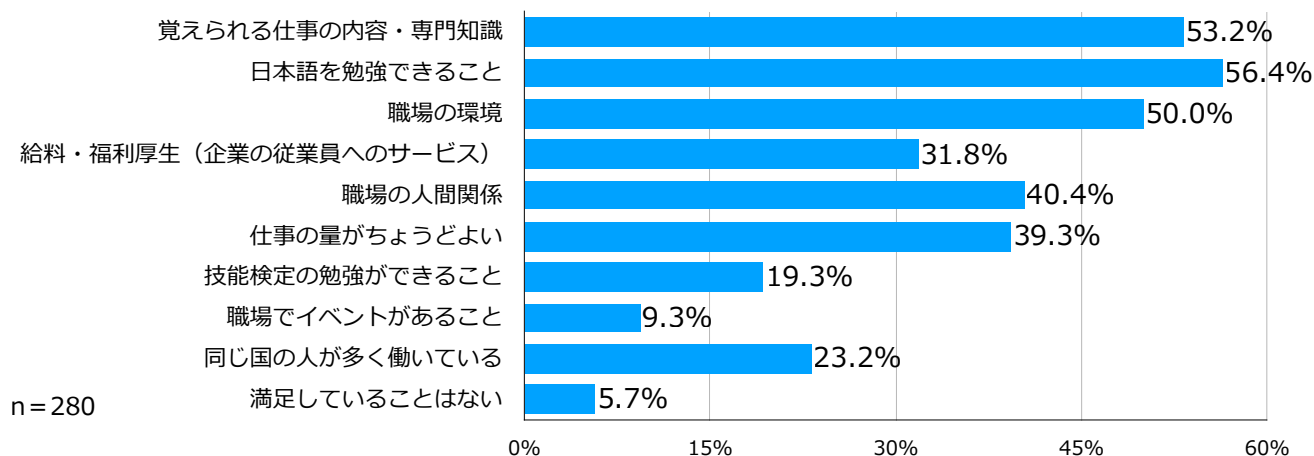


1週間の平均労働時間（残業込み）



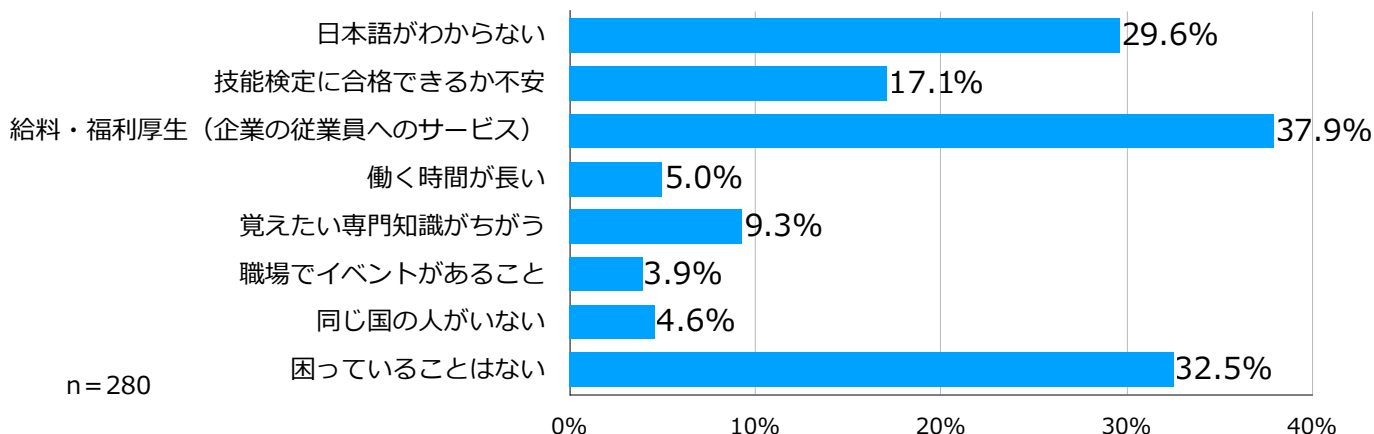
- 1ヶ月の給料（税込）が、15万円未満が7割を占めていた。平均労働時間が週40時間以上が半数を超えていた。

就業先で満足していること（複数回答）



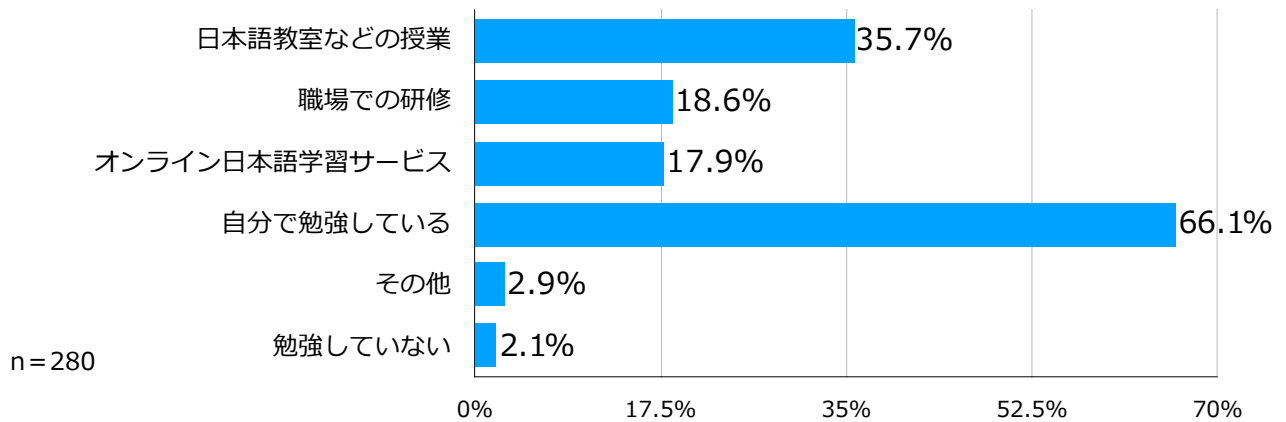
- 就業先で満足していることは、「日本語が勉強できること」が一番高く、次いで「覚えられる仕事の内容・専門知識」「職場の環境」であった。

就業先で困っていること（複数回答）



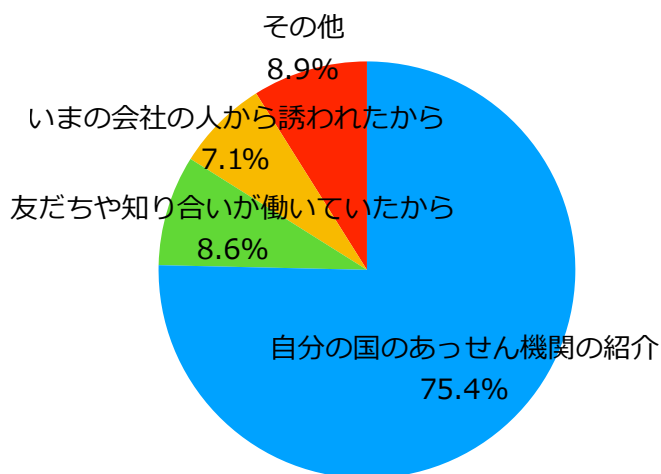
- 就業先で困っていることは、「給料・福利厚生（企業の従業員へのサービス）」が一番高く、ついで「日本語がわからない」であった。「覚えたい専門知識がちがう」が約1割であった。

日本語の学習方法（複数回答）



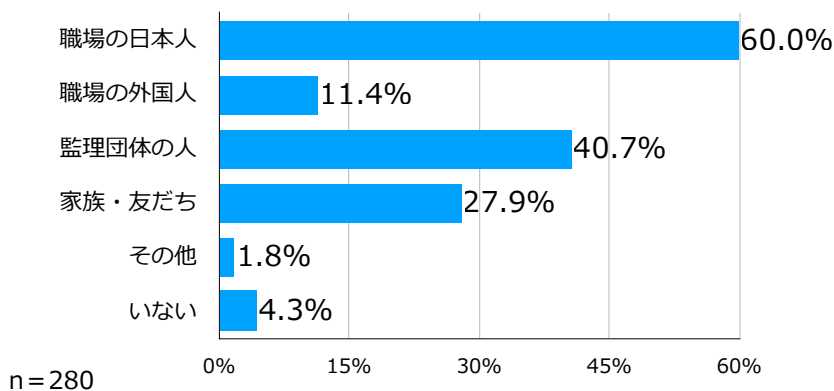
- 日本語の学習方法は、「自分で勉強している」が一番高く、次いで「日本語教室などの授業」であった。「職場での研修」は約2割であった。

現在の会社で就業することになった理由



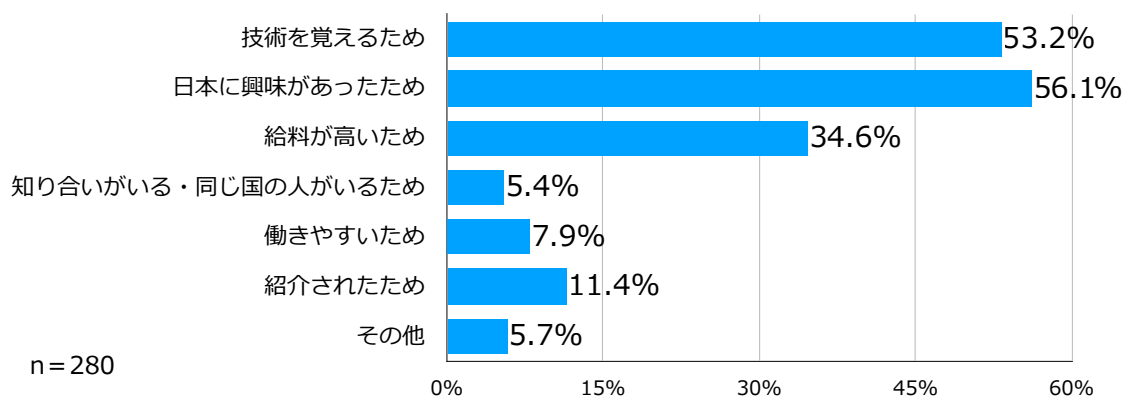
- 現在の会社で就業することになった理由は、「自分の国のあっせん機関の紹介」が75%を占めていた。

職場で困った際の相談相手（複数回答）



- 職場で困った際の相談相手は、「職場の日本人」が一番高く、ついで「管理団体の人」「家族・友だち」であった。「いない」は4.3%であった。

就業先として日本を選択した理由（複数回答）

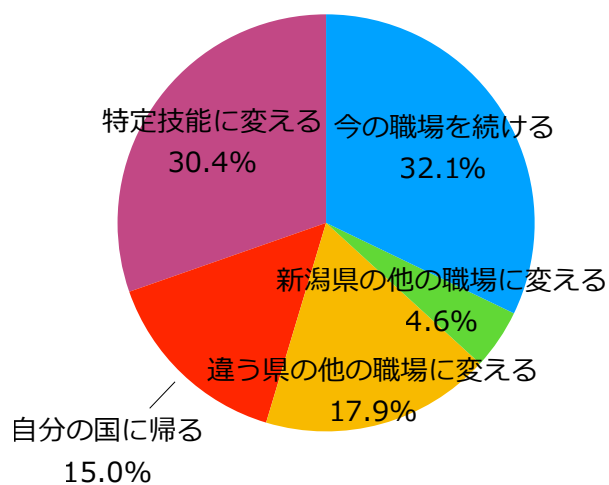


- 就業先として日本を選択した理由は、「日本に興味があったため」、「技術を覚えるため」の順であった。

「その他」
自由記述
(抜粋)

- 生活環境が良いから
- 日本に住んでいる子どもたちに会いたい、一緒にいたい。

今後のキャリアについて

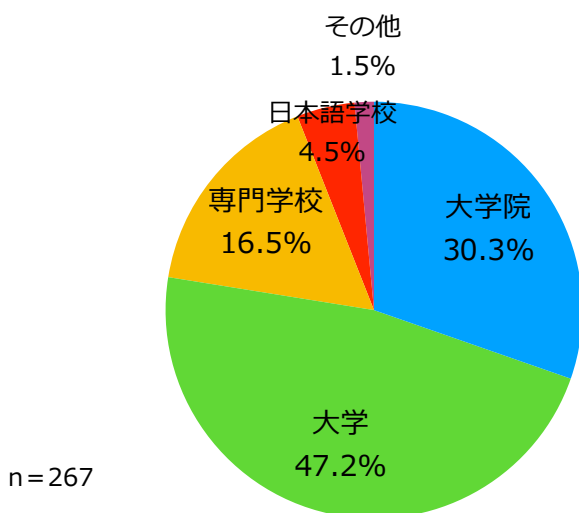


n=280

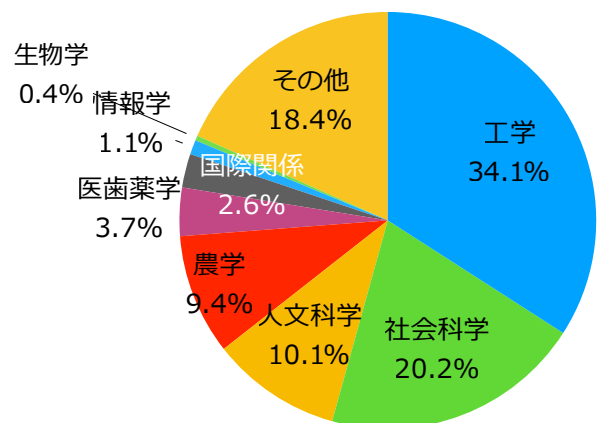
- 今後のキャリアとして、「今の職場で続ける（続けたい）」が32.1%、「特定技能に変える（変えたい）」が30.4%であった。「自分の国に帰る」は15.0%であった。

(4) 留学

通っている学校の種類

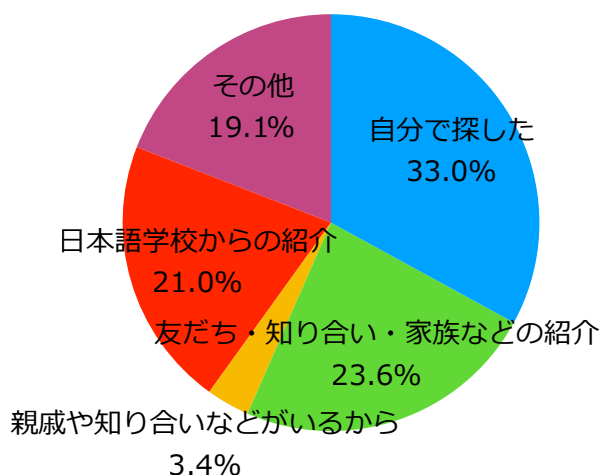


専攻分野



- 「大学」「大学院」合計で約8割を占めている。専攻分野は、「工学（機械工学、電子工学、応用化学など）」34.1%、「社会科学（法律、政治、経済、社会学など）」20.2%であった。

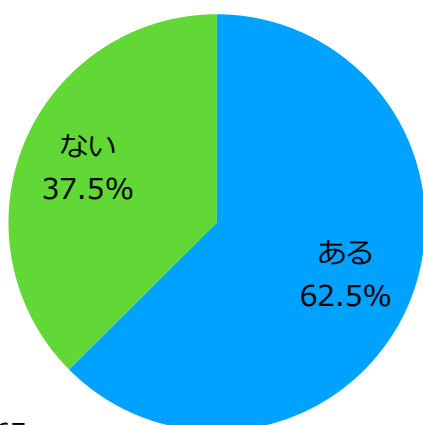
新潟県で就学した理由



- 新潟県で就学した理由は、「自分で探した」33.0%、ついで「知り合い・家族などの紹介」23.6%であった。

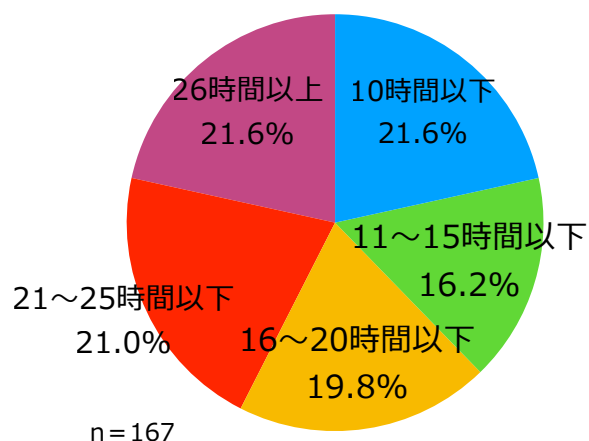
n = 267

日本でのアルバイト経験



n = 267

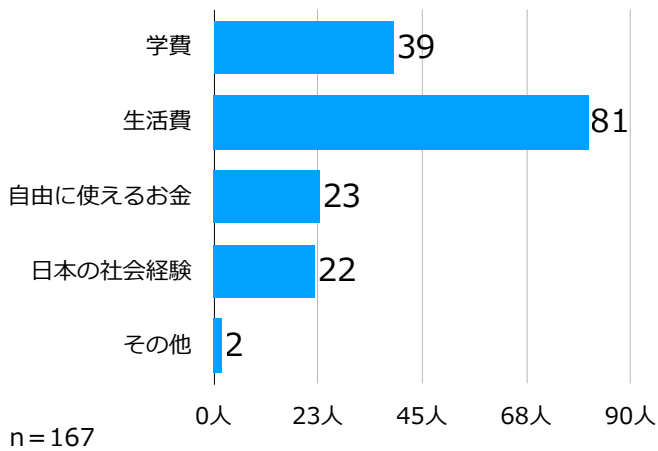
1週間のアルバイト時間



n = 167

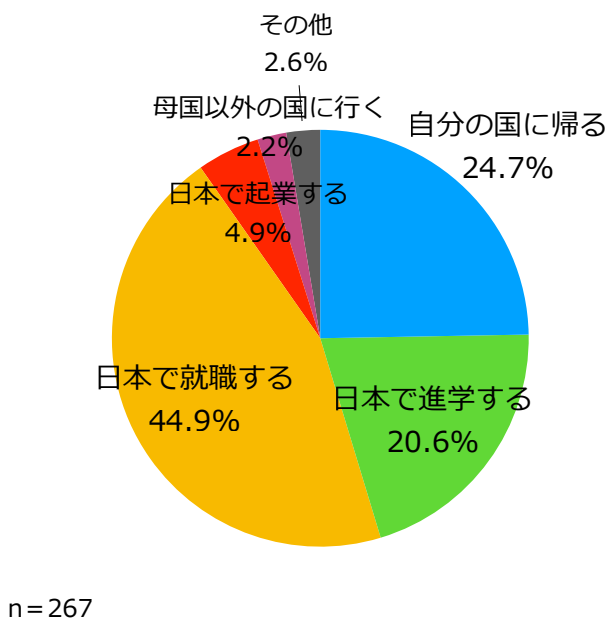
- 日本でのアルバイト経験がある人は62.5%であった。アルバイト経験がある人の1週間あたりのアルバイト時間（平均）は、21時間以上が4割を占めていた。

アルバイトをする主な理由



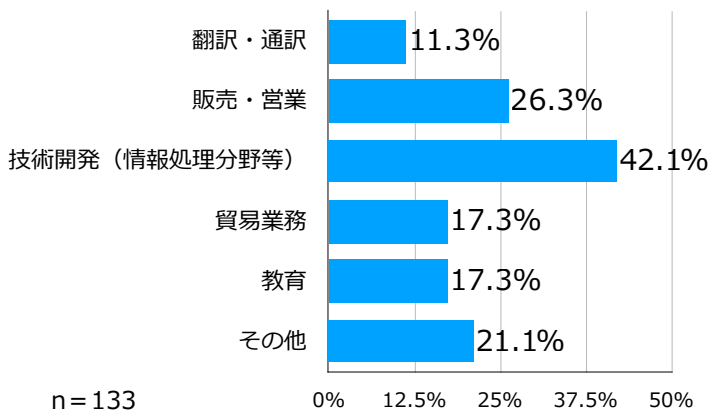
- アルバイトをする主な理由としては、生活費が約半数を占めていた。

卒業後の予定

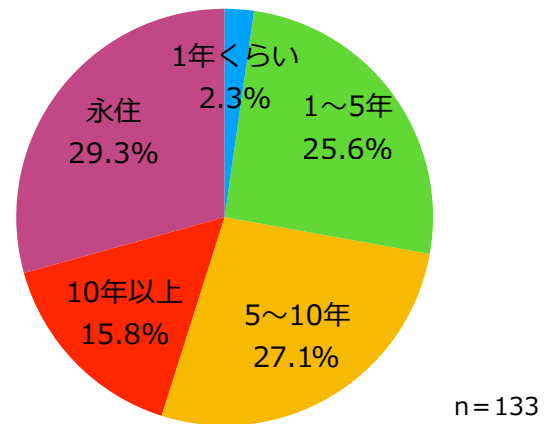


- 卒業後の予定として、「日本で就職する」「日本で起業する」の合計が約半数を占める。「自分の国に帰る」は24.7%であった。

【日本で就職・日本で起業】
希望する業務内容（複数回答）

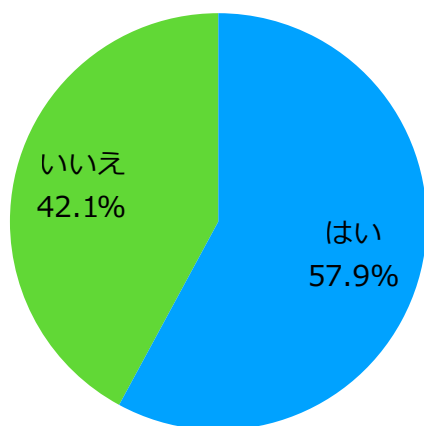


卒業後、日本で働きたい期間



- 日本での希望する業務内容としては、「技術開発（情報処理分野等）」が42.1%であった。卒業後、日本で働きたい期間としては、5年以上は32.9%、永住が29.3%であった。

就職先は新潟県を希望するか



- 日本での就職、起業を考えている人のうち、「新潟県」を希望している人は57.9%であった。

新潟県を希望する理由（抜粋）

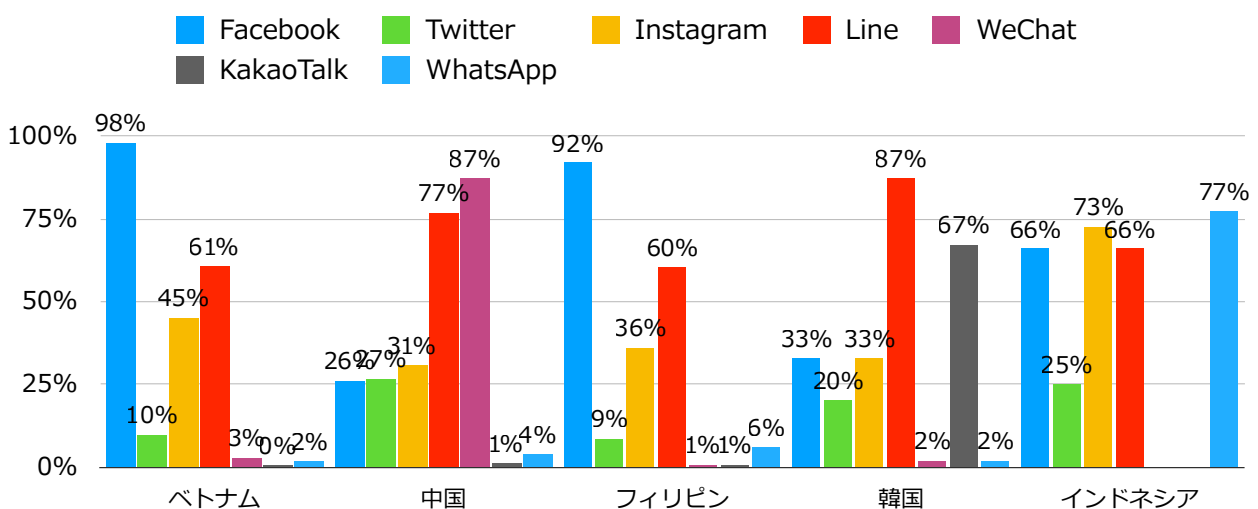
- 新潟は風景もきれいで、落ち着いた雰囲気に住みやすいと思います。興味を持った企業も新潟にはたくさんあって、新潟で就職したいと思います。
- 首都圏より、新潟県の就職できる企業が少ないですが、県内で数年間生活した後、周りの人はとても重要だと思います。後は新潟県の自然景色がいいです、夏は海に行き、冬はスキーができます。
- 東京などの大都会と比べ生活しやすい、のんびりできる。このような生活環境が好きです。消費水準が低いから貯金ができる。家賃も安い。
- 大変多忙な感じでもなく、またつまらない感じでもない。
- 新潟の人とお天気が好きです。
- 研究・科学のレベルは十分に満足です。

新潟県を希望しない理由（抜粋）

- 行きたい会社がないから。
- 東京または首都圏で働きたい。
- 東京のような先端技術で埋め尽くされた県で働きたい
- ほとんどの県内企業が留学生にN1相当の日本語能力を求めているから
- 新潟の給料が低いと思い、卒業後ここで就職の希望がない。
- まだ寒い気候になれていないから。
- 新潟の天候は自分に合わない。

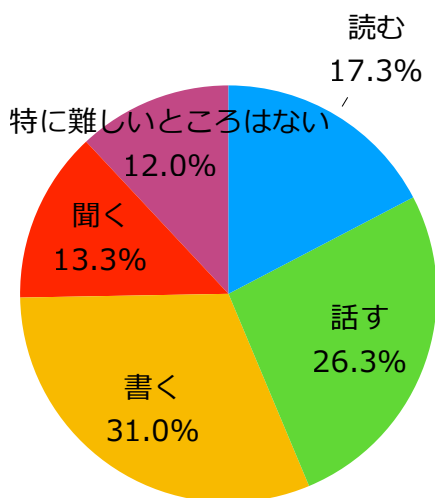
(5) 共通項目

主な国籍別使用するSNS（複数回答）



- 「Line」は国籍にかかわらず使用状況が高かった。それ以外は、国籍によって使用状況が異なり、ベトナムはFacebook、中国はWeChat、インドネシアはWhatsApp・Instagram・Facebook、韓国はKakaoTalkであった。

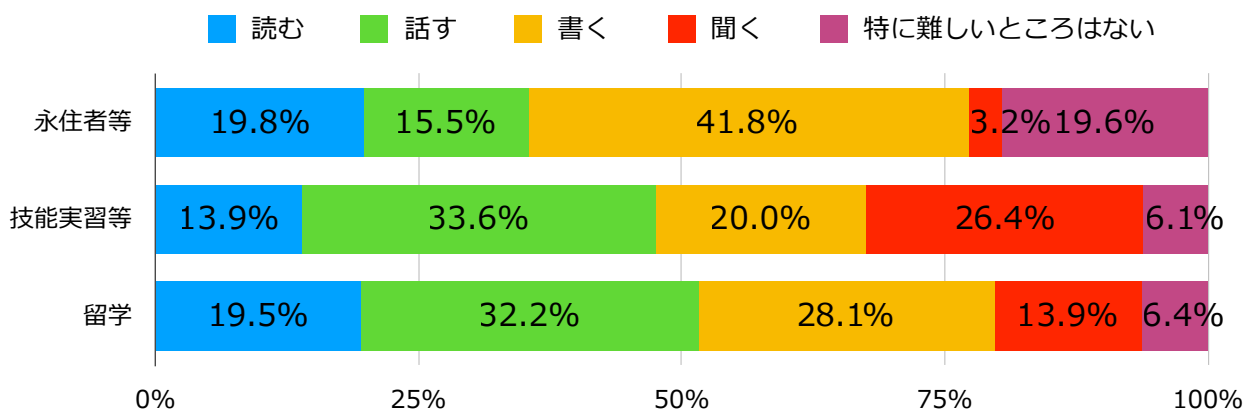
日本語を使う上で1番難しいと感じる点



- 日本語を使う上で1番難しいと感じている点は、「書く」が31.0%を占め、次いで「話す」が26.3%であった。

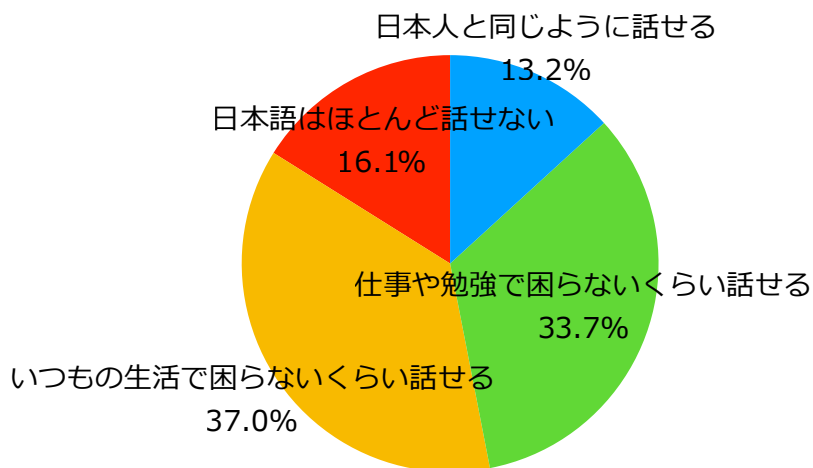
n=1044

在留資格別日本語を使う上で1番難しいと感じる点



- 日本語を使う上で「聞く」ことが1番難しいと感じているのは技能実習等の26.4%で、留学の2倍、永住者等の8倍の高さであった。技能実習等では「話す」も33.6%が難しいと感じている。

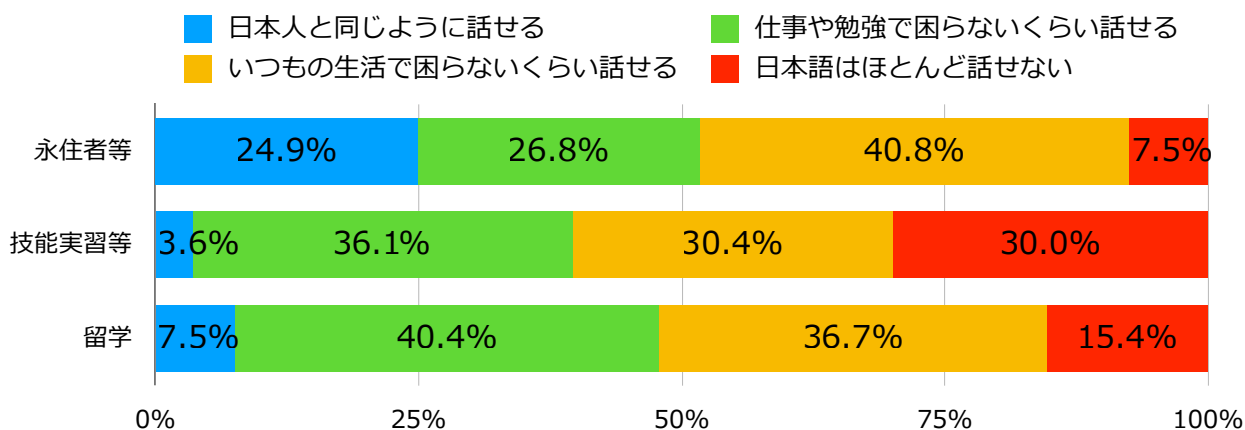
日本語での会話の程度



- 「日本人と同じように話せる」は13.2%、「日本語はほとんど話せない」は16.1%であった。

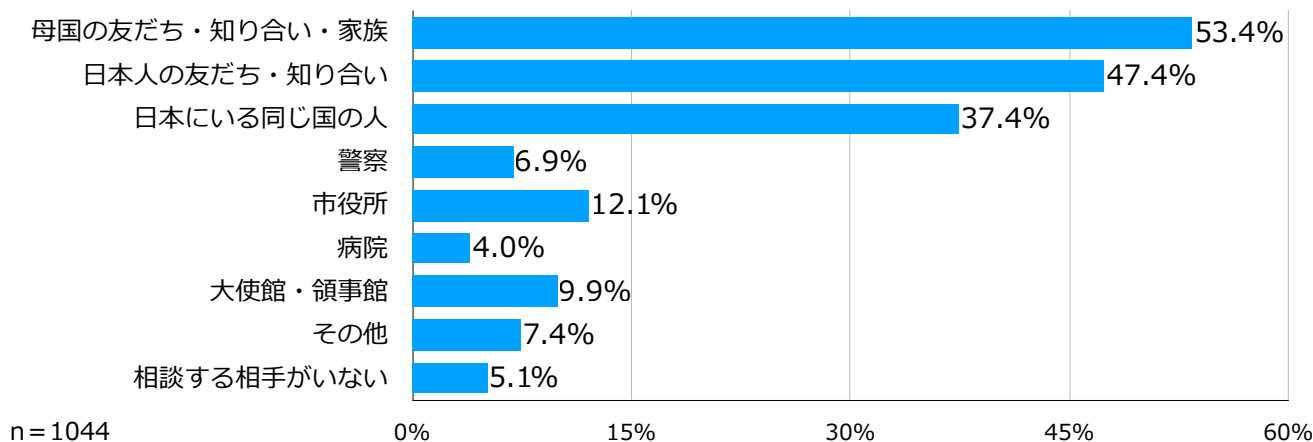
n=1044

在留資格別日本語での会話の程度



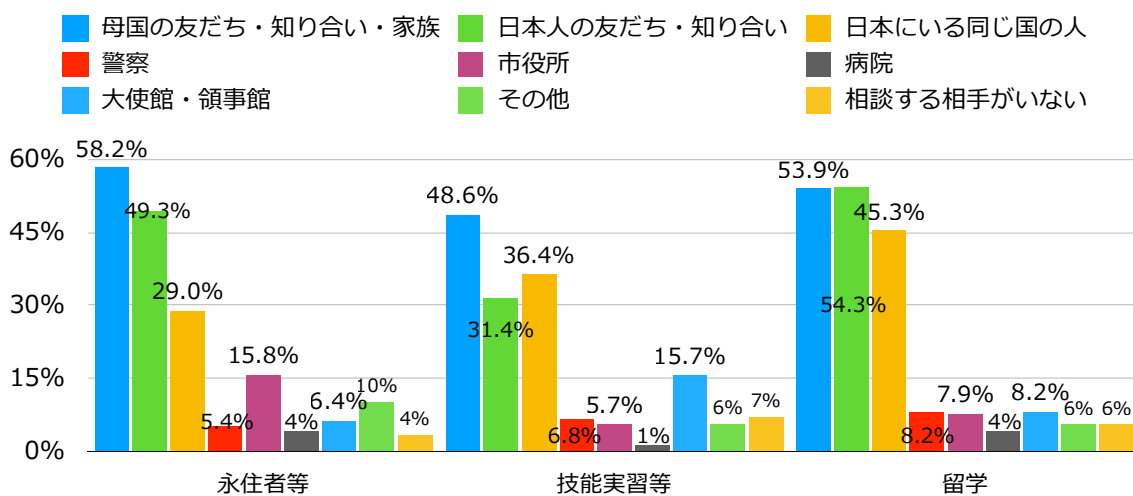
- 技能実習等の30%が「日本語はほとんど話せない」と回答している。これは留学の2倍、永住者等の4倍である。

困ったときの相談相手・機関（複数回答）



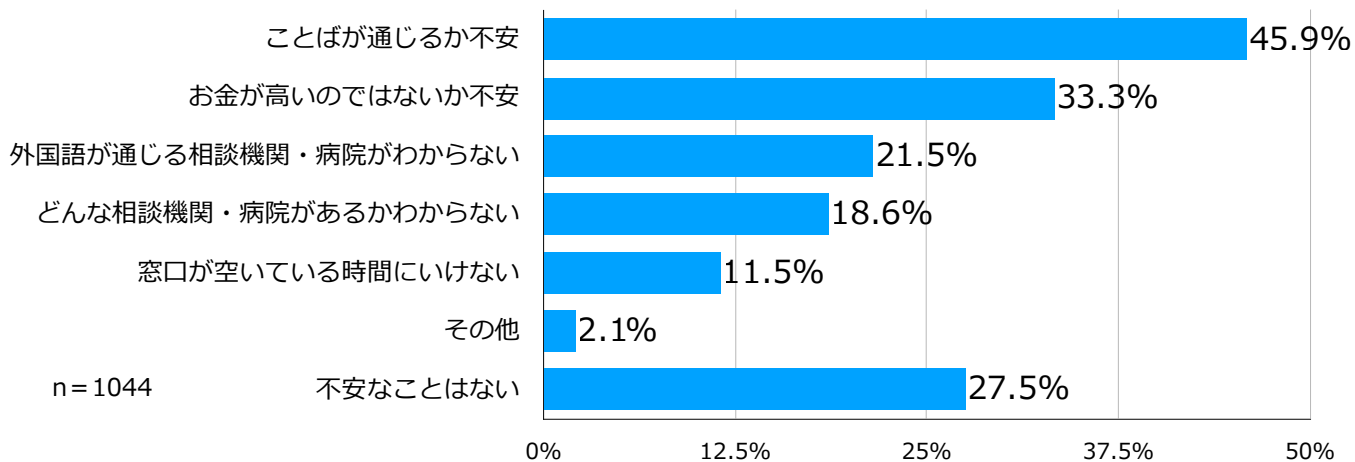
- 困ったときの相談相手は、半数以上が「母国の友だち・知り合い・家族」、次いで「日本人の友だち・知り合い」であった。「相談する相手がいない」は5.1%であった。

在留資格別困った時の相談相手・機関



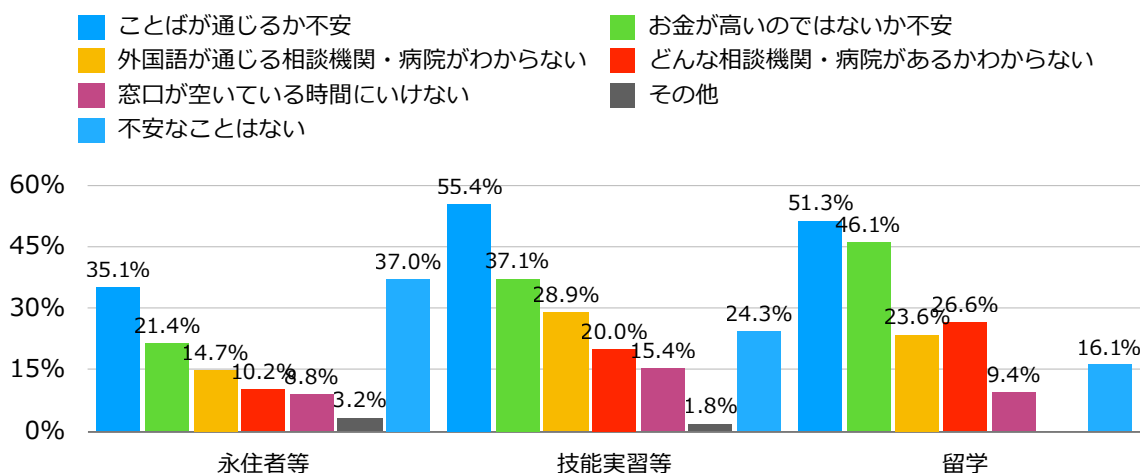
- 困った時の相談先として、永住者等と留学と比べて、技能実習等は「日本人の友だち・知り合い」20ポイントほど低い。技能実習等では、「大使館」が15.7%で、永住者等・留学よりも2倍ほど高かった。

公的機関・医療機関を利用する際に不安なこと（複数回答）



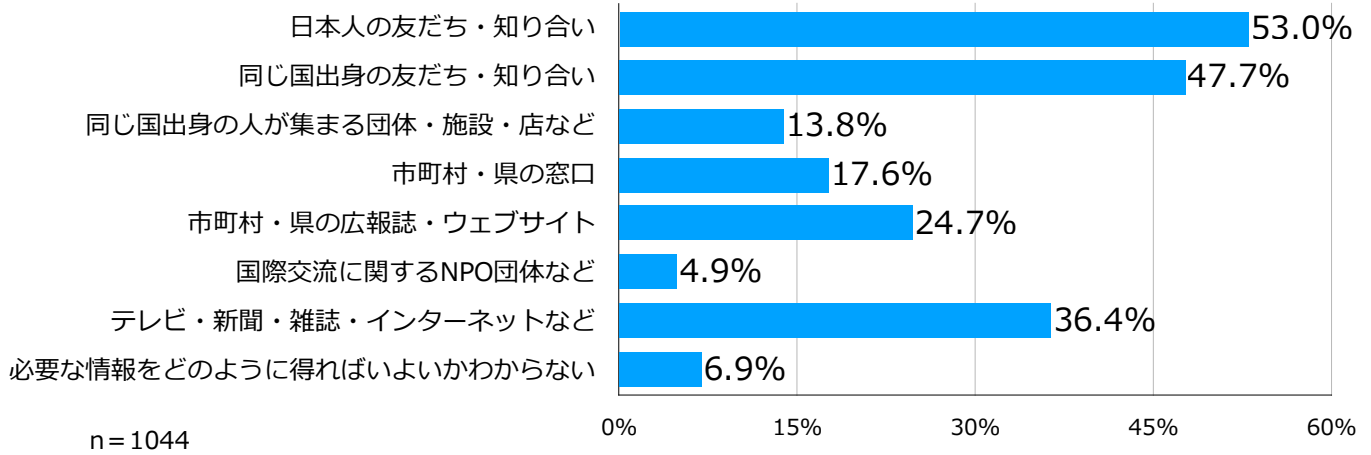
- 公的機関・医療機関を利用するにあたって、45.9%は「ことばが通じるか不安」を挙げている。次いで、「お金が高いのではないか不安」「外国語が通じる相談機関・病院がわからない」。

在留資格別公的機関等を利用する際に不安なこと



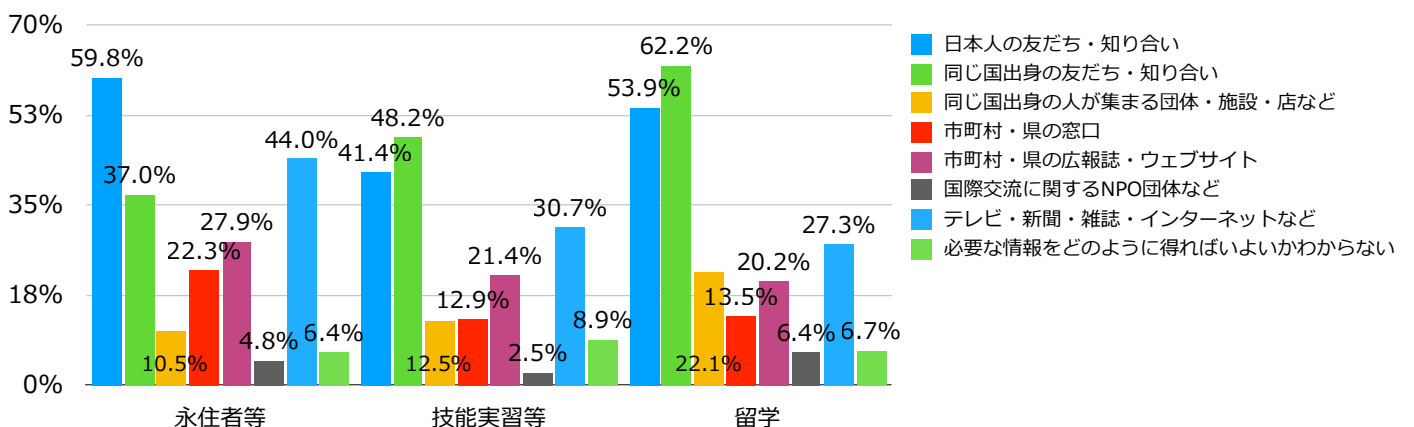
- 公的機関等を利用する際に不安なこととして、技能実習等の半数以上は「ことばが通じるか不安」、3割は「外国語が通じる相談機関・病院がわからない」と回答している。同様に留学も半数以上がことばの不安を挙げ、あわせて「お金が高いのではないか不安」を挙げている。

地域で暮らすために必要な情報の入手元（複数回答）



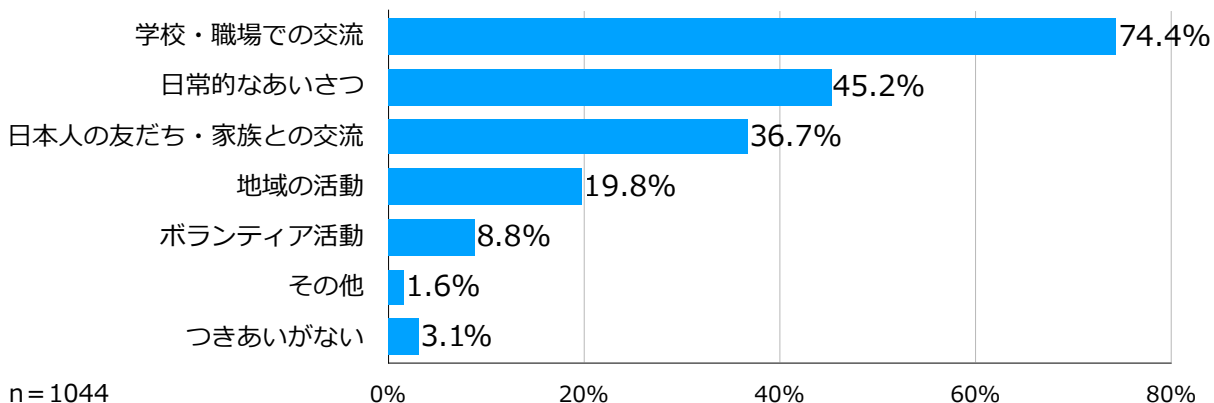
- 地域で暮らすために必要な情報は、日本人の友だち・知り合い、同じ国出身の友だち・知り合いから入手している。「必要な情報をどのように得ればよいかわからない」は6.9%。「国際交流に関するNPO団体」よりも、「市町村・県の窓口」「市町村・県の広報誌・ウェブサイト」の割合が高かった。

在留資格別地域で暮らすための必要な情報



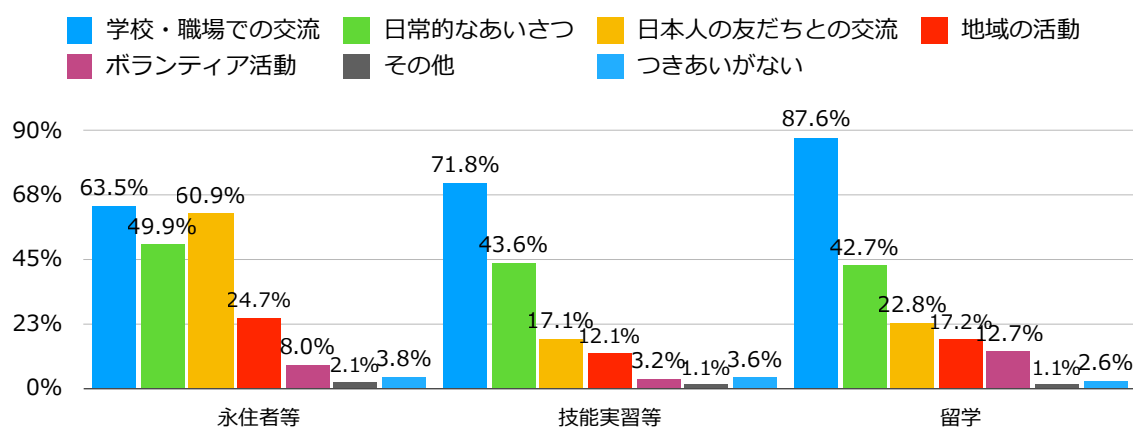
- 地域で暮らすための必要な情報を永住者等は「日本人の友だち・知り合い」から、留学、技能実習等は「同じ出身の友だち・知り合い」が高かった。

ふだん日本人とどのように交流しているか（複数回答）



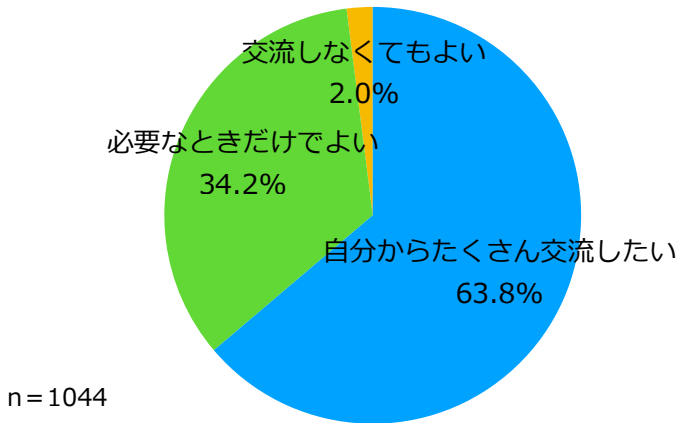
- ふだんの日本人との交流は、「学校・職場での交流」が3/4を占めている。「地域の活動」は2割程度で、「つきあいがない」は3.1%であった。

在留資格別日本人とのふだんの交流



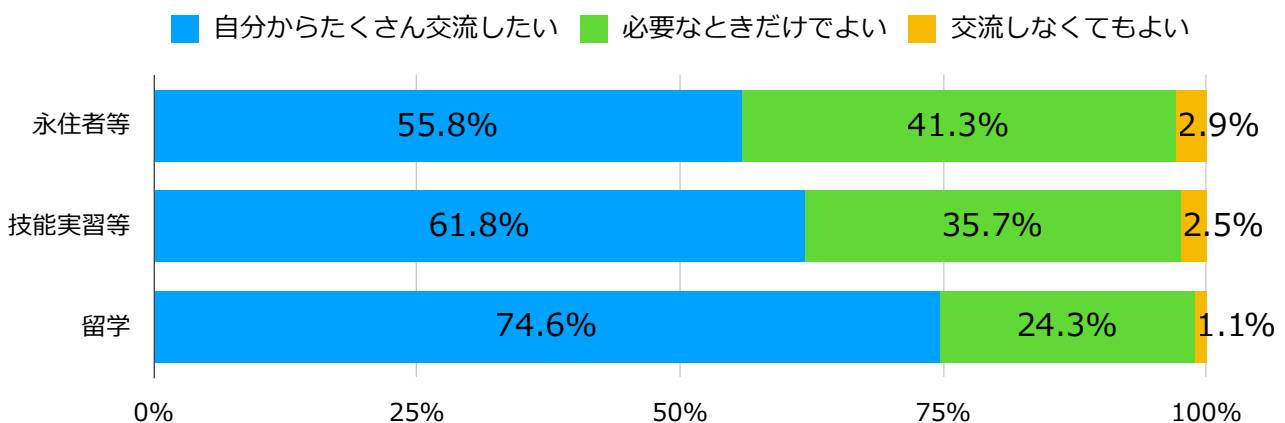
- 日本人とのふだんの交流として、永住者等は「日本人の友だちとの交流」が6割を占めているが、留学・技能実習等は2割程度であった。

日本人とどの程度交流したいと思っているか



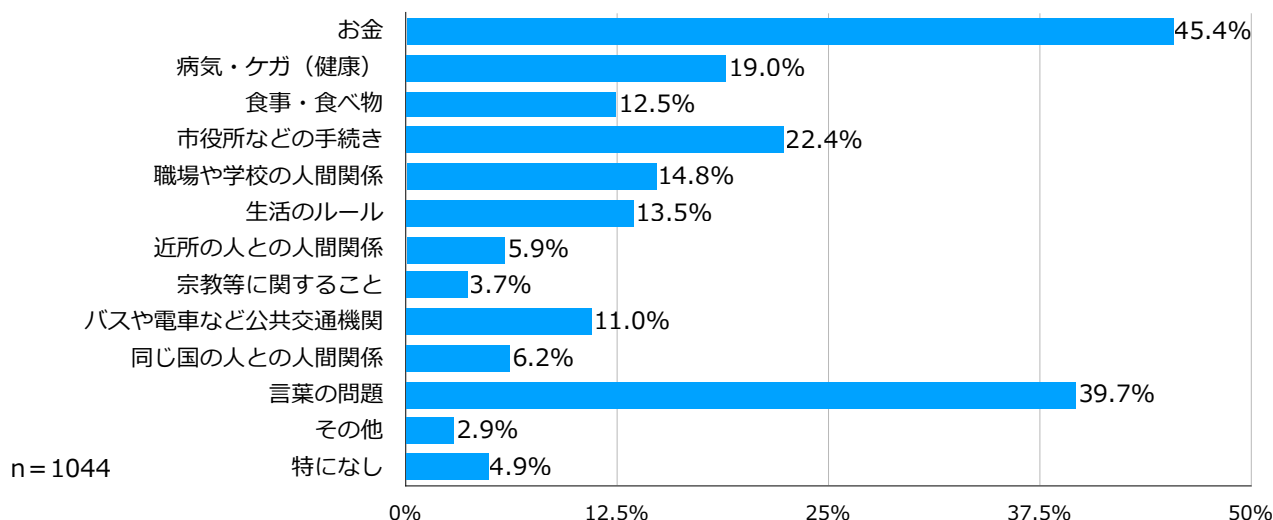
- 63.8%は「自分からたくさん交流したい」と考えている。

在留資格別日本人と交流したい程度



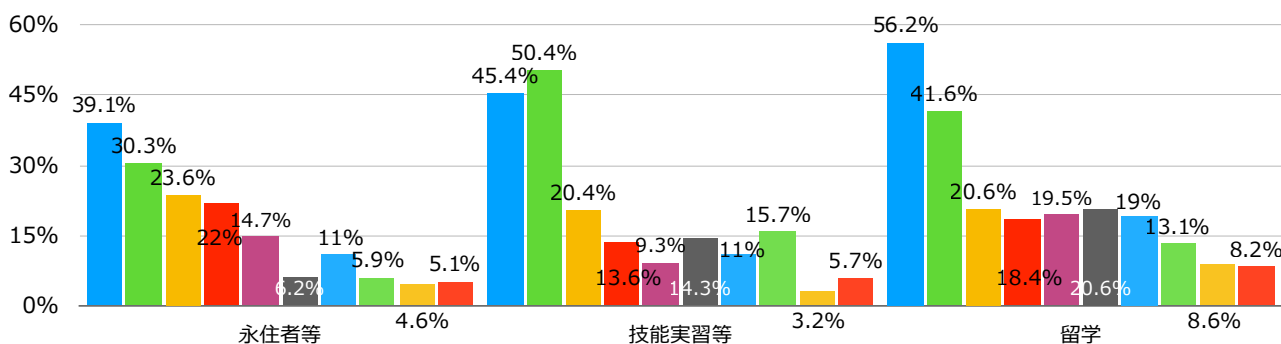
- 日本人との交流について、留学の74.6%、技能実習等の61.8%は「自分からたくさん交流したい」と考えている。「交流しなくてもよい」は在留資格を問わずほとんどいなかった。

日本で生活する上で困っていること（複数回答）



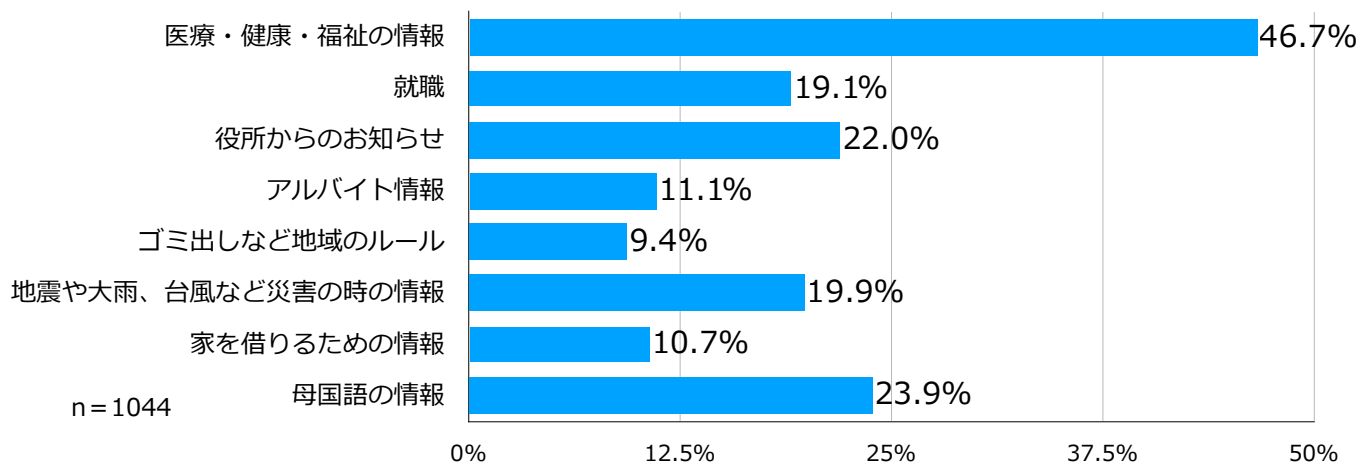
- 日本で生活する上で困っていることとして、45.4%は「お金」、次いで「言語の問題」39.7%であった。その他の記述として、「孤独」「友だちを作ること」などがあつた。

在留資格別主な日本での生活で困っていること



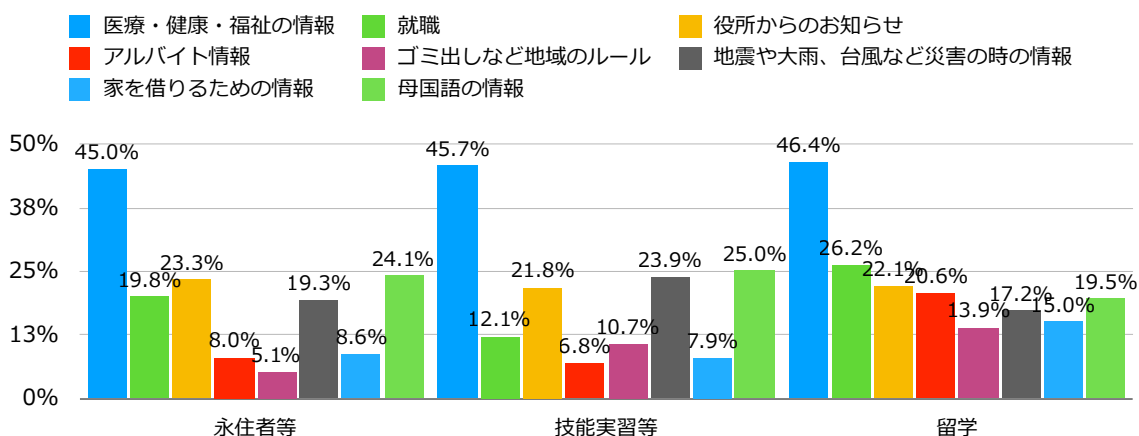
- 日本での生活で困っていることとして、留学は第1位が「お金」、第1位が「言語の問題」、技能実習等は第1位が「言語の問題」、第2位が「お金」であつた。

日本で生活する上で手に入らなくて困っている情報（複数回答）



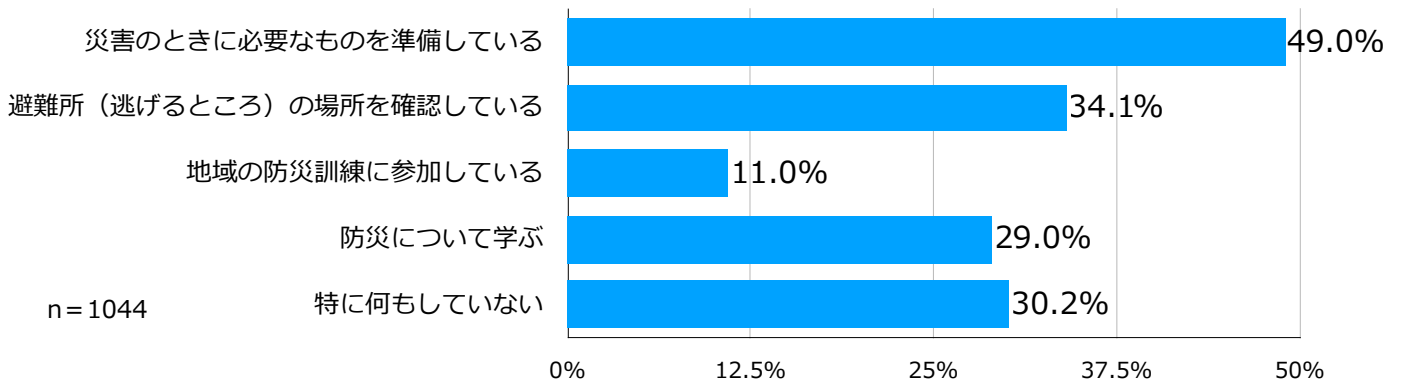
- 日本で生活する上で手に入らなくて困っている情報は、「医療・健康・福祉の情報」が46.7%を占めていた。次いで「母国語の情報」「役所からのお知らせ」「地震や大雨、台風など災害の時の情報」

在留資格別日本での生活で手に入らなくて困っている情報



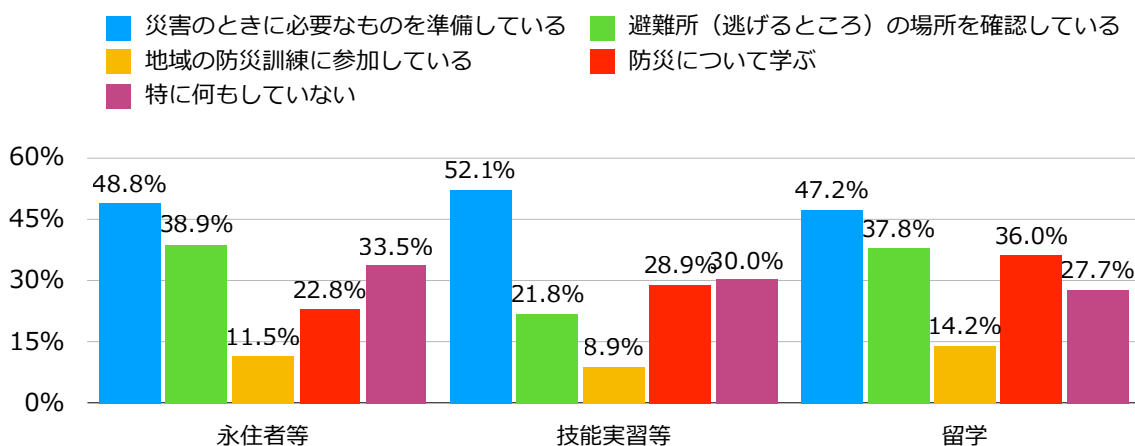
- 日本で生活する上で手に入らなくて困っている情報は、留学は「アルバイト情報」「ゴミ出しなどの地域ルール」、技能実習等は「地震や大雨、台風など災害の時の情報」「ゴミ出しなどの地域ルール」が高かった。

災害に対する備え（複数回答）



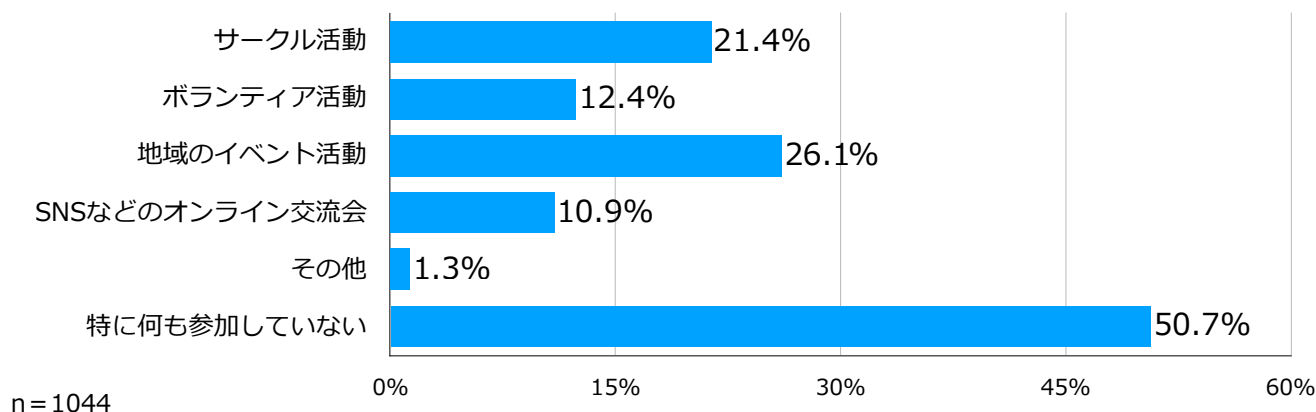
- 災害への備えとして、「災害のときに必要なものを準備している（水、食料、薬など）」が49.0%と半数を占めている。その一方で、「特に何もしていない」が3割を占め、「地域の防災訓練に参加している」のは1割程度であった。

在留資格別災害のためにしている備え



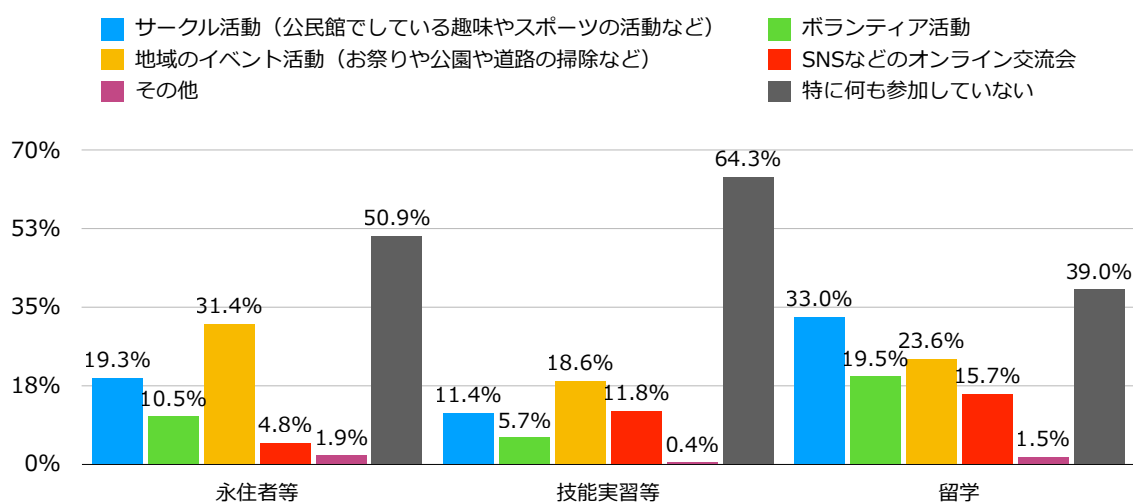
- 災害への備えとして、技能実習等で「避難所（逃げる場所）の場所を確認している」のは2割程度で、永住者等・留学の半数程度であった。

ふだん参加している社会活動・地域活動（複数回答）



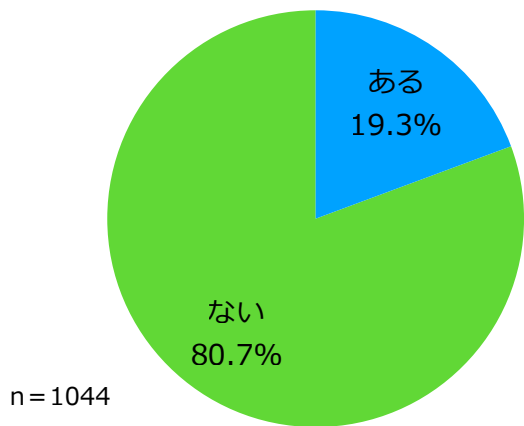
- ふだん参加している社会活動・地域活動としては、「地域のイベント活動」26.1%、「サークル活動」21.4%であった。その一方で、「特に何も参加していない」は50.7%であった。

在留資格別参加している社会活動や地域活動

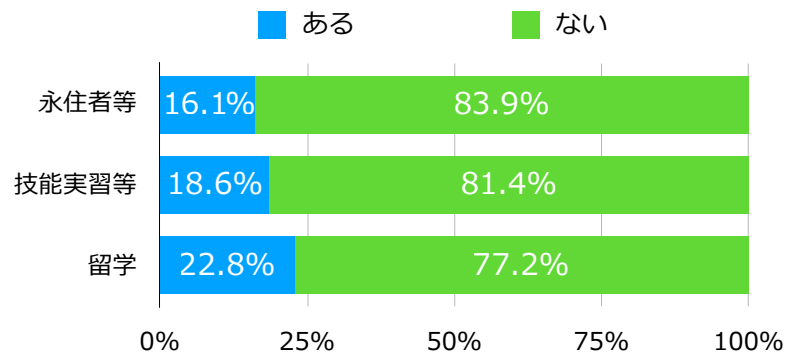


- 「地域のイベント活動」には、永住者の3割、技能実習等・留学の2割が参加している。技能実習等は「特に何も参加していない」が6割以上を占めていた。

新潟県内で所属している外国人コミュニティの有無

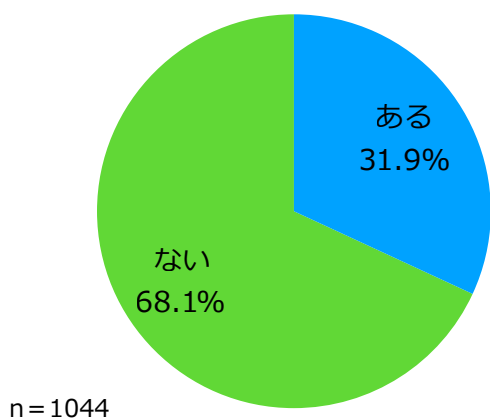


在留資格別外国人コミュニティ

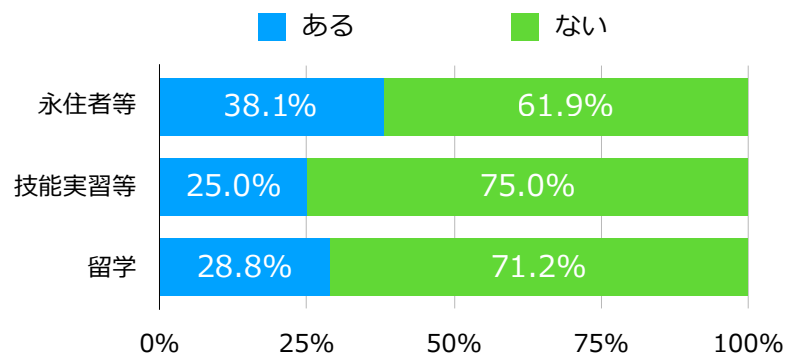


- 留学は大学のコミュニティ、永住者は宗教上の集まりや同業者の集まり、技能実習等はSNSを介したかかわりなどの記述があった。

日本の生活のなかでの「差別」経験

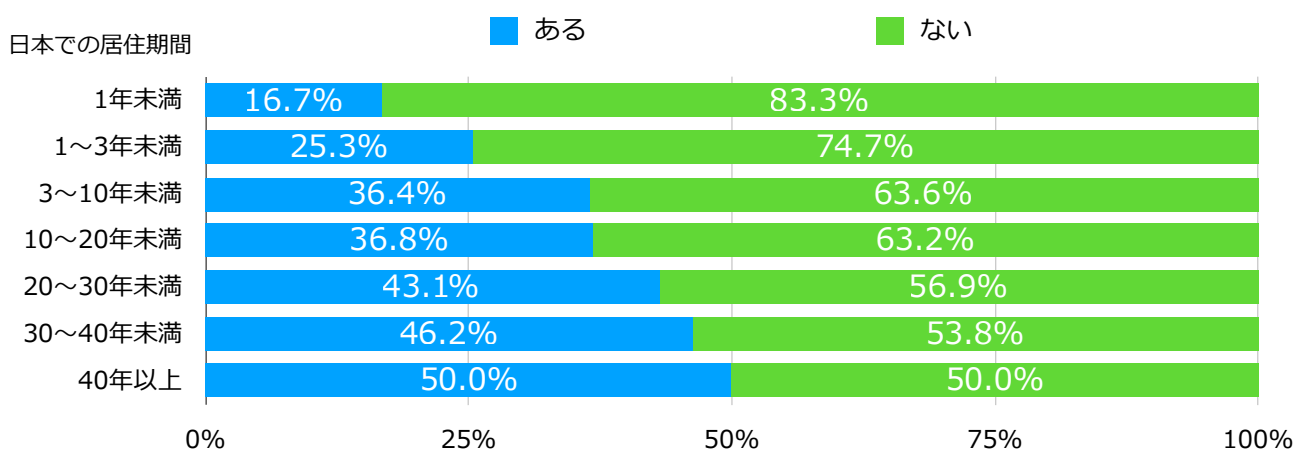


在留資格別「差別」経験



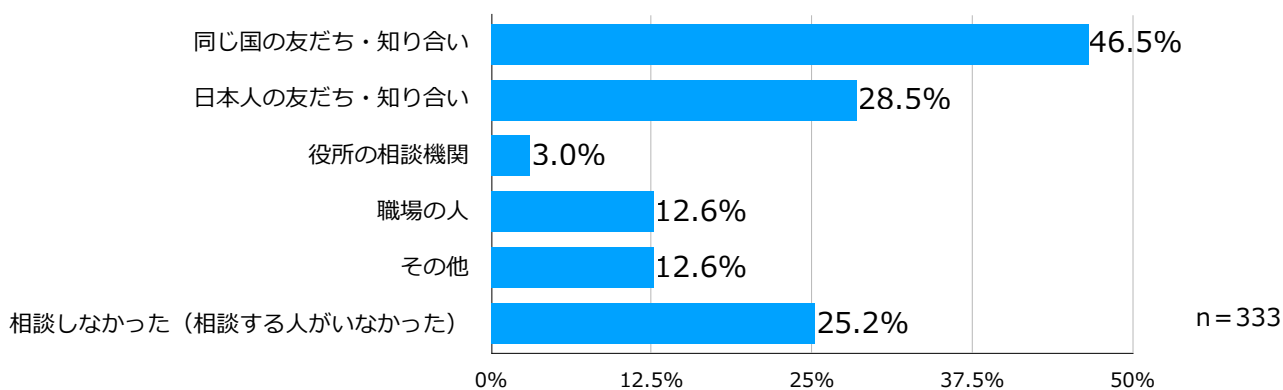
- 「ある」が31.9%であり、回答者の3割は「差別」を経験していた。そのなかで永住者等は38.1%が「ある」と回答していて、他よりも高かった。

居住期間別日本の生活のなかで「差別」を経験したことは



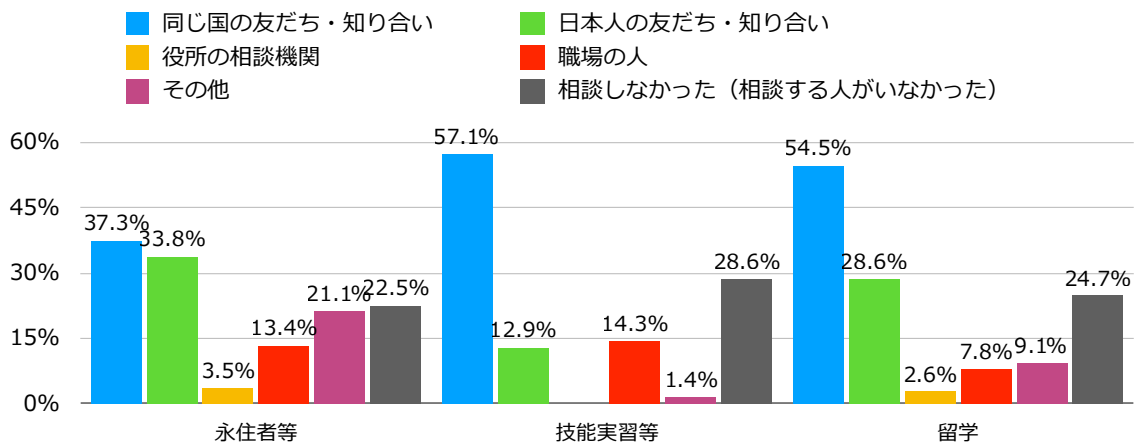
- 居住期間が長い人ほど「差別」を経験している

「差別」を経験したときの相談先（複数回答）



- 「差別」を経験したときの相談相手として、46.5%が「同じ国の友だち・知り合い」に相談をしているが、25.2%は「相談しなかった（相談する人がいなかった）」と回答している

在留資格別「差別」経験についての相談先



- 「差別」を経験したときの相談相手として、技能実習等では「日本人の友だち・知り合い」が1割程度で、永住者等・留学の1/3程度であった。どの在留資格でも2割を超える人が「相談しなかった（相談する人がいなかった）」と回答している。

経験した「差別」の内容について（自由記述）

- 経験した「差別」の内容について、具体的な記述は320件あった（「差別」経験「ある」人の96.1%が記載している）
- 回答者の内訳「永住者等」133、「技能実習等」68、「留学」70、「その他」43
- 自由記述の内容を一部抜粋する

経験した「差別」の内容（永住者等）

No	内容
1	外国人ってわかった時に表情が変わります。
2	仕事時、よくバカにされる 意味もわからず どなられる
3	日本語が話せないなら中国へ帰れば、何でここにいるの？など
4	ハロワークで職探しに行ったとき、担当の方に「外国人だから仕事ないよ」と言われました。
5	起業する時、全然応援しない。貸付金も貸してくれない。
6	子どもの英会話教室に入会しようとした時に親が外国人だとできないと言われた。
7	選挙権がないのは差別だと思います！
8	日中関係が良くない時、言葉からのいじめ
9	新幹線に日本人の女性を隣に座ってた時、その人はスタッフを呼んで、席を変更できるのかを聞いた…
10	なかまにはいりにくい。ことばがわからないとおもって、ひそひそばなしをされる。
11	ボディー・シェイミング
12	資格や経験は十分あるのに、英語のネイティブスピーカーでないだけで時々英語教師の職務に採用されなかった。

経験した「差別」の内容（永住者等）

No	内容
13	外国人にタメ口をする場合が多い。職場で昇進する機会が少ない。
14	仕事さがしにおいて、外国人は雇えないと断られることが数えきれないほどあった。
15	発音が違うからからかわれた。
16	2回、日本人でないのでレストランに入ることを拒否された。
17	まったく理由なしで警察に職務質問された
18	子どもを連れて現地の公園に行こうとした時、警察に職務質問された。いた日本人に尋ねず。在留カード、運転免許や車両登録を見るように要求されて、ナンバープレートを審査した。その事件以来、子どもを連れてその公園に戻ってきていませんし、そうすることに不安を感じている。
19	診療所に行きましたが、医師は外国人にサービスを提供する訓練を受けていないと言われた。
20	答えできません。言葉が足りない。
21	顔をジロジロみられる。距離をとる。
22	日本人は私の近くに立つ又は座ることを断った。有色人であることに差別。日本語でひどい事を言われた（何を言っていたのを分かった）。レストランに外国人のグループが入った途端、人が出た。

経験した「差別」の内容（永住者等：日本人の配偶者や家族）

No	内容
23	銀行や時々ホテルで、在留カードを見せるや経済状況を証明されることがある。私が日本語を話せないと思い込んで、すべての説明を夫にすることがある。そして、自分の名前でクレジットカードを申請できません。
24	中国人は中国に帰れと言われたことがある
25	官公庁で外国人にタメ口で対応。
26	就職を活動をしていた時、外国人というだけで採用されなかった。
27	ハローワークでアルバイトを探した時。面接日時が決めたのに私は外国人だから店長は面接をキャンセルされた。
28	レストランで働いていましたが、お客さんが来店して私を見かけた時、「彼女は日本人じゃない、別のレストランに行こう」と言った。
29	警察に職務質問された。私が（またはすべての外国人が）新型コロナを広めていると言われた
30	途上国出身者と知ると、貧乏だと思われる。下に見られる。

経験した「差別」の内容（技能実習等：技能実習）

No	内容
31	同じ同期で入社したが、自分の方が一生懸命仕事するが、相手とは残業や働き方には区別されている。
32	外国人のため、職場での待遇と環境があまり望ましくない。
33	給与、賞与、待遇
34	コミュニケーション能力の問題で、悪口を言われたり、鼻で笑われたりする。会社ではベトナム人2人がいるが、いつも残りの人よりも大変な仕事や量が多い仕事を与えられるが、相手よりも残業が少ない。
35	コンビニで買い物する際、自分がベトナム人だと分かったときに、いい対応を貰えなかった。
36	仕事では公平じゃない。
37	精神的に苦しめられている。叱られており、重い仕事は常に一人でやらされており、誰も手伝ってくれない。
38	タクシーや飲食店を利用する際、外国人に敬語を使わない。
39	たまに外食に行くが、外国人の顧客だとあまり喜んで対応してくれない。
40	体がよく打たれる。

経験した「差別」の内容（技能実習等：特定技能）

No	内容
41	軽蔑されて、言葉が理解できないと思われ、自分と接触したくない気がする。
42	デパートに入るとき、従業員に区別や差別をされる時がある。公園では、日本人の若者に悪い言葉で言われる。たまに外国人に対する嫌な感じをする。
43	作業中で一緒に仕事をしているが日本人とベトナム人には態度が全然違います。日本語がよくわからない時、いじめられた。ベトナム人より日本人が仕事あんまりきつくないです。結構差別です。悲しかったです。
44	家を借りる時に、外国人は借りることができない。
45	ゴミを捨てた時、ゴミ箱の前に立て、他の事をしていたまったく知らない、健全な精神状態でない女性に私は怒られた。そんな大したことない。
46	温泉で友たちと英語で会話したことを叱られたこと。日本人でないためバーで入場を拒否されたこと。大家は外国人にを貸すことを断られていること。駅係員は言葉の壁による助ける気がないこと。
47	理由なしに警察に職務質問されたし、いくつかのクリニックや歯医者でサービスを断られた。
48	警察にレイシャル・プロファイリング（差別的な職務質問）されたり、場所の入場を拒否されたり、憎しみに満ちた視線または無視されたことがある。

経験した「差別」の内容（留学）

No	内容
49	アルバイトで差別されたことが何回もある。「お前は日本人じゃないので話したくない」とお客さんに言われたこと。「ベトナム人は悪い人多いよね、いつも悪いニュースを見かけたから」と言われたこと。「ベトナムに炊飯器とかテレビないですね？」と聞かれたこと。そして、日本語を間違ったら、「日本語わからないの？ちゃんと勉強して！」と嫌そうに聞かれたことなど。
50	同じ顧客として来店しても、日本人と外国人に対する対応が違う。
51	銀行口座開設際の差別
52	アルバイトなし、賃貸住宅なし
53	学校のスタッフは私の質問に答えません。日本人のクラスメートは、私よりも優れているとされていて、よく私を嘲笑します。卒業研究の講師は私を自分の生徒として全く扱ってくれませんでした。学校は留学生に対して完全に無責任で、留学で遭遇する困難に耳を傾けません。
54	仕事の時に、名札によって「外国人」であることが知られると、顧客に差別されたことがあります。
55	変な顔つき（をされる）
56	電車やバスに乗るとき、立っていても、日本人は私の近くに座らない。
57	アパートを探した時差別を受けた。

経験した「差別」の内容（その他）

No	内容
58	仕事、プロジェクトのチャンスを与えてくれない。部屋を借りる際、困らされた。
59	搾取されている。リーダーが仕事量が少ないのに、よく私の悪口をいう。
60	賃貸マンションを探す時に、日本人じゃないと契約できないと言われたことがある。
61	役所、病院 名前が呼ばれるのも怖い。
62	よく言われる話「外国人だから日本の事情についてよくわからないかも知れないけど」言いながら説教する。外国人は、日本の事情がわからないだろうと「アンコンシャスバイアス（無意識の偏ったモノの見方）」で言われる。
63	アパートを借りる際に外国人は入れない、銀行で新しい口座を作りに行った際、外国人はダメなどいろいろ経験をしました。
64	ありすぎて、書ききれません。
65	偏見、軽視されたり、過小評価したり、言葉による虐待、差別的な意思決定、構造的差別、故意の誤解

【多文化共生推進の調査プロジェクトメンバー】

所属	役職等	氏名
外国人相談センター新潟	中国語通訳員	王 頤
新潟におけるベトナム人協会	理事長	ファム フォン リン
事業創造大学院大学	教授	杉本 等
新潟県立大学国際地域学部	教授	権 寧俊
新潟県立大学国際地域学部	助教	新井 貴大
新潟県立大学人間生活学部	准教授	小澤 薫
(公財)新潟県国際交流協会	主任	福永 綾
新潟市中央区社会福祉協議会	コミュニティソーシャルワーカー	鹿柴 綾子

※所属、役職は2023年3月時点

新潟県在住の外国にルーツのある方の生活と意識に関する調査報告書

2023年6月発行

【発行】新潟県・(公財)新潟県国際交流協会・新潟市中央区社会福祉協議会

【集計・分析】多文化共生推進の調査プロジェクトメンバー